

# リアナ・トト

クリスマスに  
キリストの光を探す、  
2-16ページ

けいけん  
敬虔さを通じて啓示を招く、  
26ページ

「なぜわたしが」と尋ねるのは  
なぜですか?, 30ページ

24か国のクリスマスの伝統、  
「フレンド」8ページ

# 成人

## 大管長会メッセージ

- 2 クリスマスには帰る ヘンリー・B・アイリング管長

## 家庭訪問メッセージ

- 25 思いやりに満ちた奉仕を通して養い育てる

## 特 集

- 16 わたしの姉妹たちの愛によって マリナ・ペトロバ  
訪問教師たちのおかげでその年のクリスマスが変わりました。
- 18 ステーク会長に授けられる靈的な賜物 ニール・L・アンダーセン長老  
ステーク会長は主から召され、自分が管理する地域で仕えるための鍵と靈的な力を与えられています。
- 26 敬虔さを通して礼拝する 口バート・C・オーツ長老  
わたしたちの態度と振る舞いは、主に対するわたしたちの崇敬の念、敬意、愛、誇りを映し出しています。
- 36 労働の祝福 H・デビッド・バートンビショップ  
労働は祝福でもあり、戒めでもあります。主はこの戒めを守ろうと努力する人を助けてくださいます。

## シリーズ

- 41 末日聖徒の声  
寝つきの会員にクリスマスの喜びを運んだ若い女性たち。クリスマスプレゼントのおもちゃをあきらめた子供たち。教師に証をした学生。死期が迫った兄が約束を果たせるように助けた妹。
- 48 今月号の活用法  
家庭のタベのアイデアと、今月号に採り上げられているテーマ。

## 表紙

表紙——「脱出」ローズ・ダトク・ダール画。  
教会歴史美術博物館の厚意により掲載  
裏表紙——「イエスの誕生」ギュスター・ドレ画

# 青少年

## 特 集

- 8 ひとりのみどりががわれわれのために生れた  
うま  
救い主に関するイザヤの預言を深く探る。
- 10 愛の贈り物 チャストニア・オコロ  
わたしたちの隣人は、わたしたちが彼女に与えられる唯一の贈り物を喜んでくれるでしょうか。
- 12 「われら、3人の王」 ウエンディ・ケニー  
幼子イエスを訪れた博士たちはだれだったのでしょうか。
- 30 なぜわたしが? エリザベス・クイグリー  
わたしの生活はすべて順調でした。でも突然、がんと診断されたのです。

## シリーズ

- 24 ポスター——ハallelヤ!  
34 質疑応答  
両親は教員ではありません。彼らの気分を害さず福音を伝えるにはどうしたらよいでしょうか。



# リアホナ 2009年12月号

第11巻第12号(04292 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)

大管長会:トマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、  
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、  
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーカス、  
M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、  
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホーランド、  
デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クリク、  
D・トッド・クリストファーンソ、ニール・L・アンダーセン

編集長:スペンサー・J・コンティー

顧問:キース・K・ヒルビッグ、菊地良彦、ポール・B・パイパー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

編集主任:ラリー・ヒラー

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:R・ハリジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者:ライアン・カー

編集補佐:スザン・バレット

編集スタッフ:デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリットン、ラリー・

ン・ボーター・ガント、アニー・ジョーンズ、キャリー・カステン、ジエ

ニファー・マディー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オ

テカーカ、ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキー、チャド・

E・ファレス、ジャン・ビンボロー、リチャード・M・ロムニー・ドン・L・サー

ル、ジャネットトマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイチャー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンパン

制作主幹:ジェーン・アン・ビターズ

デザイン:制作スタッフカリ・R・アロヨ、コレット・ネベカーオース、ハワード・

G・ブラウン、ジュリー・バー・デット、トマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリ

ステンセン、キム・エンスター・マーク、キャスリン・ハワード、エリック・P・

ジョンソン、デニス・カービー、スコット・M・ムー、ギニー・J・ルルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クリエイ・K・セドウ

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵

送いたします。●「リアホナ」のお申し込み、配送についてのお問い合わせ

…〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・

キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定 値 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通郵便/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メール—liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アーバニア語、アルメニア語、イタリア語、イングリシア語、ウクライナ語、ウルグアイ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チビ語、タミル語、チベット語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ビスマラク語、ヒンディー語、フィジー語、フランス語、ブルガリア語、トルコ語、ベトナム語、ボーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時に、また非営利目的で使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww\_ldschurch.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は"Gospel Library"(福音ライブラリ)をクリックしてください。その他の言語は"Languages"(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年12月号第11巻第12号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN 1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み:定期刊行物郵送料はソルトレーキシティで納められています) 住所変更は60日前にご連絡ください。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーキ配送センターにお送りください。購読に関するお問い合わせ: 1-800-537-5971。クレジットカード(ビザ・マスターカード・アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承ります。(カナダ郵便情報:出版承認番号4001743)

郵便局長:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先:Salt Lake Distribution Center Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368

# 子供

だいさんちょうう せかいじゅう こども  
大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスマッセージ

## F2 クリスマスはなぜ不思議なのでしょう

とくしゅう  
特集

## F4 初等協会でのマナー ジャン・ピンボロー

## F8 せかいのクリスマス

チャド・E・ファレス、シャーラ・ブレイスウェイト

## F10 テンプルスクウェアのクリスマス

シリーズ

## F7 色をぬりましょう

## F12 分かち合いの時間——

わたしはイエス・キリストを

思いおこします

シェリル・エスプリン

## F14 よげんしゃジョセフ・スミスの

しうがいから——

キリストのまことのもはん



「フレンド」表紙  
絵／ジム・マドセン



今月号のどこかに隠れている  
ノルウェー語のCTRリングを  
さがす  
えらべ、なた  
選べ、正しいページを!

## 読者からの便り

### 努力の成果

『リアホナ』2008年9月号、32ページに掲載されていた古代ローマ遺跡の前

に立つ青少年の姿を見て、ほんとうにうれしくなりました。わたしは1971年にイタリアで専任宣教師として働きました。

ローマで伝道中、同僚とわたしは、アルベルト・デ・フェオとマシモ・デ・フェオといふ、二人のすばらしい子供を教える機会がありました。その後、彼らはバプ

テスマを受けました。その記事でデニース・デ・フェオの姿が目に留まり、それが現在イタリア・ローマステークの会長

を務めているマシモの娘であることを

知ったときのわたしの喜びを想像できる

でしょうか。それだけでなく、アルベルトがカナダで支部会長を務めている

ことも知りました。伝道中の様々な経験と、福音の実を見られたことを主に感謝しています。

アルゼンチン、オスカーブランク

### 心の喜び

悲しいときには、よく『リアホナ』を開いて預言者や使徒のメッセージを読みます。彼らの言葉は心に慰めと喜びを与えてくれます。この機関誌にほんとうに感謝しています。この機関誌を通じて、天の御父、そして贍い主イエス・キリストの愛を感じることができます。

コロンビア、マリア・エルシー・ワルテロ・オルフェラ

ご意見やご提案を liahona@ldschurch.org にお送りください。掲載するお手紙は、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。



# クリスマスには 帰る

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

**幼いころ**に初めて聞いた歌があります。クリスマスと家庭をテーマにした歌でした。当時は第二次世界大戦のさなかで、故郷や家族から遠く離れて暮らしている人が大勢いました。愛する人たちにこの世では再会できないかもしれませんと感じていた人々にとって暗い時代でした。

クリスマスのころ、通学途中に

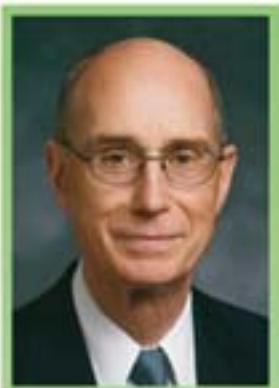
1軒の家の前を通りかかったとき、窓に掲げられた金星の小さな従軍旗が目に留まりました。そのときに家庭と家族について感じた気持ちをわたしは忘れません。その家にはわたしと同じ学校に通う女の子がいました。わたしよりもわずかに年上の、彼女の兄が戦死したのです。わたしは彼の両親も知っていたので、二人の悲しみを多少なりとも共有することができました。学校が終わって帰宅するとき、わたしは感謝しました。温かく迎えてくれる家族が待っていることを知っていたからです。

クリスマスの季節に居間でラジオをつけたとき耳にした言葉と音楽は、今でも心の中に

はっきりと残っています。歌詞の一部に感動を覚え、家族とともにいたいという切なる願いをかき立てられたからです。わたしは幸せな家庭に恵まれ、両親や兄弟たちと一緒に住んでいました。ですから、わたしが感じたその切実な願いは、ただ単に、その時点で享受していた家や家庭生活にとどまりたいという思いではないということに何となく気づいていました。それは知っている以上にすばらしく、あるいは想像したこともない、将来の場所や生活に向けられたものだったのです。

その歌でいちばんはっきりと覚えている歌詞は次のようなものです。「クリスマスには帰るよたとえ夢の中でも。」<sup>1</sup> 幸せな子供時代に母や父と一緒にクリスマスツリーを飾った家は、今もほとんど当時のままに残っています。数年前、帰郷したときにその家のドアをノックしました。出て来たのは知らない人たちでしたが、ラジオのあった部屋と、家族でクリスマスツリーの周りに集まつた部屋に通してくれました。

そのときわたしは、自分が求めているのは物理的な空間としての家ではないことがはっきり分かりました。わたしは家族とともにいること



救い主のおかげで、  
クリスマスの時期に  
家へ帰ることが  
できるだけでなく、  
愛する家族、  
互いに愛し合う家族と  
ともに  
永遠に生きられるという  
確信を持つことが  
できます。





を望んでいたのであり、キリストの愛と光に包まれたいと望んでいたのです。それは幼いころ過ごした家でわたしたち小さな家族が抱いていた感情をはるかに上回るものでした。

### 永遠の愛を切望する

クリスマスの季節だけなくいつでも、だれもが心の中で切望するのは、自分たちが愛で固く結ばれていて、それが永遠に続くと確信できることです。これが永遠の命の約束です。永遠の命こそ、神が御自身の子供たちへの最も大いなる賜物と呼んでおられるものです(教義と聖約14:7参照)。この約束を可能にしているのが、御父がわたしたちに賜わった愛子という贈り物、すなわち、救い主の降誕、贖い、復活なのです。救い主の生涯と使命を通して、わたしたちは家族として永遠に愛で結ばれて生きることができると確信することができます。

家に帰りたいという切なる願いは、生来備わっているものです。その夢が実現するには深い信仰がなければなりません。聖霊の導きによって悔い改め、バプテスマを受け、神と聖約を交わし、それを守ることができるような深い信仰が必要なのです。このような信仰を持つには、現世の試練を雄々しく堪え忍ぶ必要があります。そうすれば、来世で、あの夢の故郷で、天の御父とその愛子に温かく迎えていただけるのです。

現世にあっても、その日の到来を確信することができますし、ようやく家に帰り着いたときに知る喜びをある程度感じることができます。クリスマスに救い主の降誕を祝うことで、現世にあっても、そのような喜びを体験する特別な機会が与えられるのです。

### 約束された喜びを見いだす

わたしたちの多くは愛する人の死を経験しています。周りには、福音と永遠の命に対するわたしたちの信仰を打ち壊そうとする人たちがいるかもしれません。病気や貧困に苦しんでいる人もいます。家族の中に争いがある人もいれば、まったく家族がない人もいるかもしれません。それでも、キリストの光を招き入れて輝かすることで、わたしたちを待つ約束された喜びをある程度見て、感じることはできるのです。

例えば、あの天の家に集まるとき、周りにはすべての罪を赦され、互いに赦し合った人々がいることでしょう。その喜びは、今でも、特に、救い主が下さる数々の賜物を思い起し記念するときに、ある程度感じることができます。救い主がこの地上にお生まれになったのは、神の小羊となり、現世に生を受ける御父の子供たちがすべて赦されるように、彼らの犯す罪の代価を残らず支払うためでした。クリスマスの季節には、わたしたちは救い主の言葉を思い起こして深く考えたいと強く望むようになります。救い主は、赦されるためには人を赦さなければならないと警告されました(マタイ6:14-15参照)。これはなかなか難しいことです。だからこそ、助けを求めて祈る必要が出てきます。人を赦すために必要なこの助けが最も頻繁に与えられるのは、自分が人から傷つけられたのと同じくらい、あるいはそれ以上に、自分が人を傷つけていたことに気づくときです。

赦す力を求めて祈り、受けた答えに従って行動するとき、肩の荷が下りるのを感じるでしょう。わだかまりを抱き続けると大変な重荷を背負うことになります。赦すことで、赦される喜びを感じることができます。このクリスマスの時期には、赦しの賜物を与え、受けることができます。そして生まれる幸福感を通して、求めてやまない永遠の故郷に皆で帰り着いたときに感じる気持ちをわずかなりとも感じることができます。

### 与える喜びを感じる

クリスマスの時期に、あの喜びに満ちた将来の家がどのようなものかをもっと容易に垣間見せてくれるものがもう一つあります。それは惜しまず与える心です。惜しまず与える心は、自分の必要よりも周りの人の必要に敏感になるとき、また、神

がわたしたちにいかに寛大であられるかに気づくときにもたらされます。

クリスマスの時期にほかの人の親切な行為を見るのも役に立ちます。だれにも気づかれないように玄関先に贈り物を置きに行ったら、差出人の書いていない贈り物がすでに一つならずあったという経験が何度ありましたか。わたしも経験がありますが、だれかを助けたいという気持ちを感じ、靈感を受けて人に差し出したものが、まさしくそのとき相手の必要としていたものだったということはありませんか。そのような経験は、神がわたしたちの必要をすべて御存じであり、周りにいる人たちの必要を満たすようわたしたちに期待をかけておられるということをはつきりと証明しています。

クリスマスの時期には、神はより大きな信頼をもって、そのようなメッセージを送られます。それは、わたしたちの心が救い主の模範やその僕たちの言葉に敏感になっていて、送られたメッセージにこたえることを神が御存じだからです。クリスマスの前にはベニヤミン王の言葉を読み返して、心を動かされる人が多いのではないでしょうか。ベニヤミン王は、圧倒されんばかりの赦しの賜物を受けるならば、周りの人々にあふれるほどの寛大な気持ちになるはずだとその民に教えました。これはわたしたちに対する教えでもあります。

「そして見よ、今でさえあなたがたは神の御名を呼び、罪の赦しを請い願っている。神はあなたがたが請い願うのに応じないで、聞き流してこられただろうか。いや、神はあなたがたに御靈みたまを注ぎ、あなたがたの心を喜びで満たし、あなたがたが語る言葉を見いだせないで口をつぐむほどにされた。それほどあなたがたの喜びが非常に大きかったのである。

さて、もしもあなたがたを造られた神、あなたがたが自分の命についても自分の持ち物と能力のすべてについても頼っている神が、あなたがたが必ず与えられると信じて、信仰をもつて求める正当なものを、何でもすべて与えてくださるとすれば、ましてあなたがたは、自分たちの持っているものを互いに分かち合って当

然ではないだろうか。

また、死を免れるために物乞いをする人を、あなたがたが裁いて罪に定めるならば、自分の持ち物を与えないことで罪に定められることの方が、もっと理にかなってはいないだろうか。あなたがたの持ち物はあなたがたのものではなく、神のものであり、命もまた神のものである。にもかかわらず、あなたがたは神にまったく物乞いをせず、自分の行ってきたことを悔い改めもしない。

わたしはあなたがたに言う。そのような者は災いである。その持ち物はその者とともに滅びるからである。わたしはこれらのこと、この世のものに富んでいる者たちに告げる。」(モーサヤ4:20-23)

皆さん、人と何かを分かち合ったり、そうされたりすることに喜びを感じたことがあるでしょう。現世で得られるそのような喜びを通して、来るべき世で感じる気持ちを多少なりともうかがい知ることができます。そのためには、現世において、神を信じる信仰のゆえに寛大になる必要があります。救い主は偉大な模範を示してくださいました。クリスマスの季節になると、救い主がどのような御方であり、この世界に救い主として降誕されることでどれほど寛大さを示されたか、もう一度深く考えることができます。

マリヤからお生まれになった救い主は、神の御子としてあらゆる罪への誘惑に耐える力を持っておられました。救い主は、無限の犠牲となるため、すなわち世の初めから約束されていた汚れのない小羊となるために、完全な人生を送られました(黙示13:8参照)。そして、わたしたちが罪を赦され、清い状態で天の家に帰ることができるようするために、わたしたちの罪の苦しみと、天の御父の子供たちが犯すすべての罪の苦しみを御自分の身に引き受けられたのです。

救い主は、わたしたちには計り知れないほど大きな代価を支払ってその贈り物を下さいました。それは御自身には必要のない贈り物でした。

救い主は偉大な模範を示してくださいました。クリスマスの季節になると、救い主がどのような御方であり、この世界に救い主として降誕されることでどれほど寛大さを示されたか、もう一度深く考えることができます。



**クリスマスの  
時期に、  
わたしたちは  
キリストの降誕を  
知らせた光だけでなく、  
御子から発する光も  
思い起こします。  
多くの人が  
この光について  
はっきりと証しています。**



主は赦される必要がなかったからです。わたしたちが天の家で救い主をたたえ、礼拝するときに、救い主の贈り物に対して今感じている喜びと感謝は高まり、永遠に続くことでしょう。

クリスマスは、救い主とその無限の寛大さを思い起こすように促される季節です。救い主の寛大さを思い起こすことにより、自分の助けが必要としている人がいることを靈感によって感じ、行動することができます。また、神がよくなさるように、わたしたちに助け手を遣わされるときには、差し伸べられている神の御手に気づくことができます。特に、クリスマスの季節に神が人の心に吹き込まれる寛大さは、与える側にも受ける側にも、喜びをもたらします。

#### 救い主の光に恵まれる

クリスマスの時期に見えやすくなる天国を垣間見る方法がもう一つあります。それは光による方法です。天の御父は光を用いて、その御子である救い主の降誕を宣言されました(マタイ2章; 3ニーファイ1章参照)。東西両半球に新しい星が現れたのです。この星は博士たちをベツレヘムで生まれた幼子のもとへと導きました。邪悪なヘロデ王ですら、このしるしに気づきました。そして邪悪だったために恐れました。一方、博士たちは、世の光であり命であるキリストの降誕を喜びました。神がリーハイの子孫に与えられた御子の降誕を告げるしるしは、

3日間、暗くなることがなく明るい昼が続いたことでした。

クリスマスの時期に、わたしたちはキリストの降誕を知らせた光だけでなく、御子から発する光も思い起こします。多くの人がこの光についてはっきりと証しています。パウロもダマスコへ行く途中でこの光を見たと証しています。

「その途中、真昼に、光が天からさして来るのを見ました。それは、太陽よりも、もっと光り輝いて、わたしと同行者たちとをめぐらしくて照しました。

わたしたちはみな地に倒れましたが、その時ヘブル語でわたしにこう呼びかける声を聞きました、『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。とげのあるむちをければ、傷を負うだけである。』

そこで、わたしが『主よ、あなたはどなたですか』と尋ねると、主は言われた、『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』(使徒26:13-15)

少年ジョセフ・スミスも、回復の初期に、ニューヨーク州パルマイラの森で驚嘆すべき光を見たと証しています。

「この非常な恐怖の瞬間に、わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方をして、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス一歴史1:16-17)

そのような光は天の家で見ることができ、喜びをもたらしてくれることでしょう。しかし、現世でも、キリストの光を通して、部分的ではあれ

そのようなすばらしい経験に恵まれているのです。すべての人はこの世に生まれてくるときに、その光を賜物として与えられているからです(モロナイ7:16参照)。キリストの光が現実のものであり、貴いものであることを目の当たりにした経験を思い出してください。驚くほど確信を与える次の聖句を読めば、確かにその光によって導きを受けたことが分かるはずです。

「また、人を教化しないものは、神から出てはおらず、暗闇である。」

神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。

さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしがそれを語るのは、あなたがたが真理を知り、暗闇をあなたがたの中から追い払うためである。」(教義と聖約50:23-25)

邪悪な映像や偽りのメッセージによって世の暗闇は広がりつつありますが、皆さんは光と真理の輝きをよりたやすく見分ける能力に恵まれています。光は、喜んで受け入れるときにより明るく輝くことを皆さん経験から知っています。その光はますます輝きを増してついには真昼となるでしょう。そしてそのときには、わたしたちは光の源である御方の前に立っていることでしょう。

この光は、クリスマスの時期になると、もっと識別しやすくなります。神がわたしたちに何をするよう望んでおられるかを知るために祈ったり、聖文を開いて読んだりする機会が増え、その結果、主の用向きを受けて働く機会も増えるからです。わたしたちが赦し、赦されたと感じるとき、垂れている手を上げるとき(教義と聖約81:5参照)、自分自身も引き上げられます。光の源である御方に近づくからです。

皆さんも記憶しているように、モルモン書には、救い主から発する光が救い主に従う忠実な弟子たちを照らし、その様子を周りの人々も目にするとという輝かしい瞬間について記録されています(3ニーファイ19:24-25参照)。わたしたちはクリスマスの季節を祝うために光を用います。救い主を礼拝し、救い主のために奉仕することによって、わたしたちの生活にも周りの人の生活にも光をもたらすことができます。

わたしたちは、今年のクリスマスを昨年のクリスマスよりも明るくし、年を追うごとにその明るさを増すよう、自信をもって目標を設定することができます。現世での試練はさらに厳しさを増すかもしれません。しかし、主に従い、さんざんと降り注ぐ光にただひたすら目を向けているかぎり、暗闇は増さずには済みます。帰りたいと切望する家に続く道を歩むときに、主は導き、助けてくださいます。

## このメッセージを用いて教えるための提案

このメッセージを用いて教える準備をするときに、あなたが教える人々の必要に応じた方法が取れるように、必ず聖霊の導きを祈り求めてください。以下のような提案について検討するとよいでしょう。

1. 「永遠の愛を切望する」の項を読んで、心の中に永遠の故郷を切望する気持ちを感じますか。その故郷に戻る備えとして何を行っているか一緒に話し合ってください。

2. 「約束された喜びを見いだす」の項は、現世において喜びを見いだす方法を理解するうえで助けとなりますか。今、そして毎日、喜びを見いだすために何ができるか話し合ってください。

3. 「与える喜びを感じる」の項では、わたしたちに永遠の命を得させる救い主の比類ない賜物について学びます。周りの人もこの賜物を受けられるように、わたしたちはどのようなものを与えることができるか話し合ってください。

4. 救い主から降り注ぐ光をさらに受けやすくなり、その光を家族やほかの人と分かち合うために何をすればよいか知るうえで、アイリング管長のメッセージはどのような助けとなりますか。



わたしたちを愛し、祈りにこたえてくださる御父と、生活を光で照らして高めてくださる救い主が待っておられる天の家によようやく帰り着くときに、わたしたちは大きな喜びを感じるに違いありません。この世で、そんな喜びの何分の一かを感じる機会が特に多いのがクリスマスの時期なのです。

救い主のおかげで、クリスマスの時期に家へ帰ることができますだけでなく、天の家に帰って愛する家族、互いに愛し合う家族とともに永遠に生きられるという確信を持つことができるることを証します。■

### 注

1. ジェームズ “キム” ギャノン, “I'll be home for Christmas” (1943年)

# ひとりのみどりごが われわれのために

うま  
生　　れ　　た

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、  
ひとりの男の子がわれわれに与えられた。

まつりごとはその肩にあり、

その名は、『靈妙なる議士、

大能の神、とこしえの父、

平和の君』ととなえられる。」

(イザヤ9:6)

古代の預言者イザヤは、  
メシヤの来臨を預言し、  
その使命について  
多くのことを明らかにしました。

イエス・キリストの降誕の何世紀も前に、預言者イザヤはキリストが来臨されるときの詳細について啓示を受け、記録しました。イザヤ書第9章6節はそのような預言の一つですが、わずか数行で、救い主について、また救い主がわたしたちの人生と天の御父の計画の中で果たされる役割について多くを知ることができます。以下に、この聖句から得られる洞察について解説します。

**ひとりのみどりごが生れた、ひとりの男の子が与えられた**

救い主は最初の人アダムに神の独り子として御姿を現されました(モーセ5:7, 9; 6:52, 57, 59, 62参照)。そのとき以来、聖なる預言者は皆、神の御子が肉体をまとってその民を贖うために来臨されると証してきました(使徒10:43; モルモン書ヤコブ4:4参照)。





## まつりごとはその肩にあり

古代イスラエルでは、祭司や王は式服を身にまとい、務めに応じた印を肩に付けていました(イザヤ22:21-22参照)。神の御子イエス・キリストは、「権威ある者のように」来られました(マタイ7:29)。そして、「治める権利を持つ者が治める」福千年の間、王の王、主の主として統治されるのです(教義と聖約58:22。信仰箇条1:10も参照)。

## れいみょう 靈妙なる議士

靈妙なる(wonderful)という言葉の原語は、「奇跡」に当たるヘブライ語の言葉で、メシヤの奇跡的な降誕と、生涯にわたって行われる多くの奇跡を暗示しています。議士(counsellor)という言葉は、天の御父のもとに帰れるようわたくしたちを導くメシヤの戒めと教えに関係があります。モルモン書の預言者ヤコブはこう述べています。「〔主は〕造られたすべてのものに知恵と公正と深い憐れみをもって助言を与える……。」(ヤコブ4:10)

## たいのう 大能の神

「この世においても永遠の世においても最も大いなる御方、神の御子イエス・キリストを信じてください。世界が創造される前にさかのぼるそのたぐいの命を信じてください。キリストがわたくしたちの住むこの地球の創造主であられることを信じてください。イエスは旧約聖書の工ホバであり、新約聖書のメシヤであり、一度死んだ後復活し、……そして生ける神の生ける御子、わたくしたちの救い主、贖い主として今も生きておられることを信じていただきたいのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)  
「信じない者にならないで」『聖徒の道』1990年4月号、4

## キリストの降誕にはどのような意味があるのか?

羊飼いたちに救い主の降誕を告げ知らせた天使は、「すべての民に与えられる大きな喜び」を宣言しました(ルカ2:10)。

ニーファイは幼子イエスを抱いたおとめマリヤを示現で見て感動し、「人の子らの心にあまねく注がれる神の愛」を断言しました(1ニーファイ11:22)。

救い主御自身も宣言しておられます。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためにある。」(ヨハネ3:16)

## とこしえの父

「工ホバ、すなわちエロヒムの御子イエス・キリストは、『父』と呼ばれ、『まさに天と地の永遠の父』とさえ呼ばれています(モーサヤ16:15……参照)。これとよく似た意味でイエス・キリストは、『とこしえの父』と呼ばれています(イザヤ9:6。2ニーファイ19:6と比較)。……イエス・キリストは創造主であられ、天地の父と呼ばれることに何ら矛盾はありません。……また主の創造されたものは永遠の性質を持つため、イエスが天地の永遠の父と呼ばれるのはまさにふさわしいことです。」

“The Father and the Son: A Doctrinal Exposition by the First Presidency and the Quorum of the Twelve Apostles,” *Ensign*, 2002年4月号, 13; *Improvement Era*, 1916年8月号, 934-942より引用

## 平和の君

「恐らくわたくしたちは、平和に至る道からそれているのでしょうか。わたくしたちに必要なのは、立ち止まり、思案し、平和の君の教えについて考え、決意をもってそれを思いと行いに取り入れ、より高い律法に従い、もっと気高い道を歩み、キリストのさらに優れた弟子になることです。」

トーマス・S・モンソン大管長「平和を見いだす」『リアホナ』2004年3月号、3

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)■

# 愛の贈り物

彼女はわたしたちの歌を  
不愉快に思っていました。  
それなのになぜ、クリスマスイブに  
彼女の家の玄関先で  
音楽の贈り物をしようとしたのでしょうか。

チャストミア・オコロ

**父** が経営していた仕出し屋が立ち行かなくなってきたというものの、我が家は家計は火の車になってしまった。母が目に涙を浮かべながら帰宅したときのことを覚えています。わたしがどうしたのかと尋ねても、母は答えたがりませんでした。間もなくわたしたちは小さな一部屋のアパートに引っ越しなければならなくなりました。それしか余裕がなかったからです。

以前は、クリスマスといえば、手の込んだ料理、新調の服、パーティーがあって、楽しい場所へ出かけたり、贈り物を交換したりするのが常でした。母は、わたしたちが「クリスマス母さん」と呼ぶほどクリスマスが大好きでした。与えることが大好きで、毎年クリスマスになると、熱心に、また愛を込めて、周囲の人に贈り物をしていました。わたしたちも年を重ねるごとに、自分のことより人のことを考える特質を身に付けようと努力するようになりました。

しかし、その年は途方に暮れてしまいました。母は、住み慣れた自分の家で過ごせない初めてのクリスマスになるので、心配していました。周りの人に贈れるものを何も思いつかないので胸を痛めていたのです。しかし、わたしたちは、ささやかでも自分たちなりの方法でクリスマスの気持ちを伝えることはできると母を励ました。

それでも現実には暮らしていくのがやっとでしたし、新しい環境で平穏に過ごすのにも苦労しました。家主はクリスチャンではなく、わたしたちが朝早く起きて家族の祈りをささげたり、賛美歌を歌ったりするのを快く思っていませんでした。部屋が隣だったので、わたしたちの歌声で目を覚ましてしまうからです。

何度も文句を言わされたので、わたしたちはなるべく小さな声で歌い、迷惑をかけないように努力しました。朝の家族の祈りをやめる気がないと分かると、家主は次第に文句を言わなくなっていました。

そんなときに父があることを思いつきました。クリスマスの贈り物として、家主のためにクリスマスの歌を歌うべきだというのです。わたしを除いて家族全員がこの考えに胸を躍らせました。わたしは家族の祈りについて家主から文句を言われたことを持ち出して、猛烈に反対しました。家主ではなく、楽しんでくれそうな人のために歌うよう提案しました。

しかし父は引き下がりませんでした。たとえ信じる宗教は違っていても、わたしたちが彼女の友人であることを示す良いきっかけになると言うのです。仕方がないので、わたしは家族とともに、家主のために歌うクリスマスの歌を選び、練習しました。

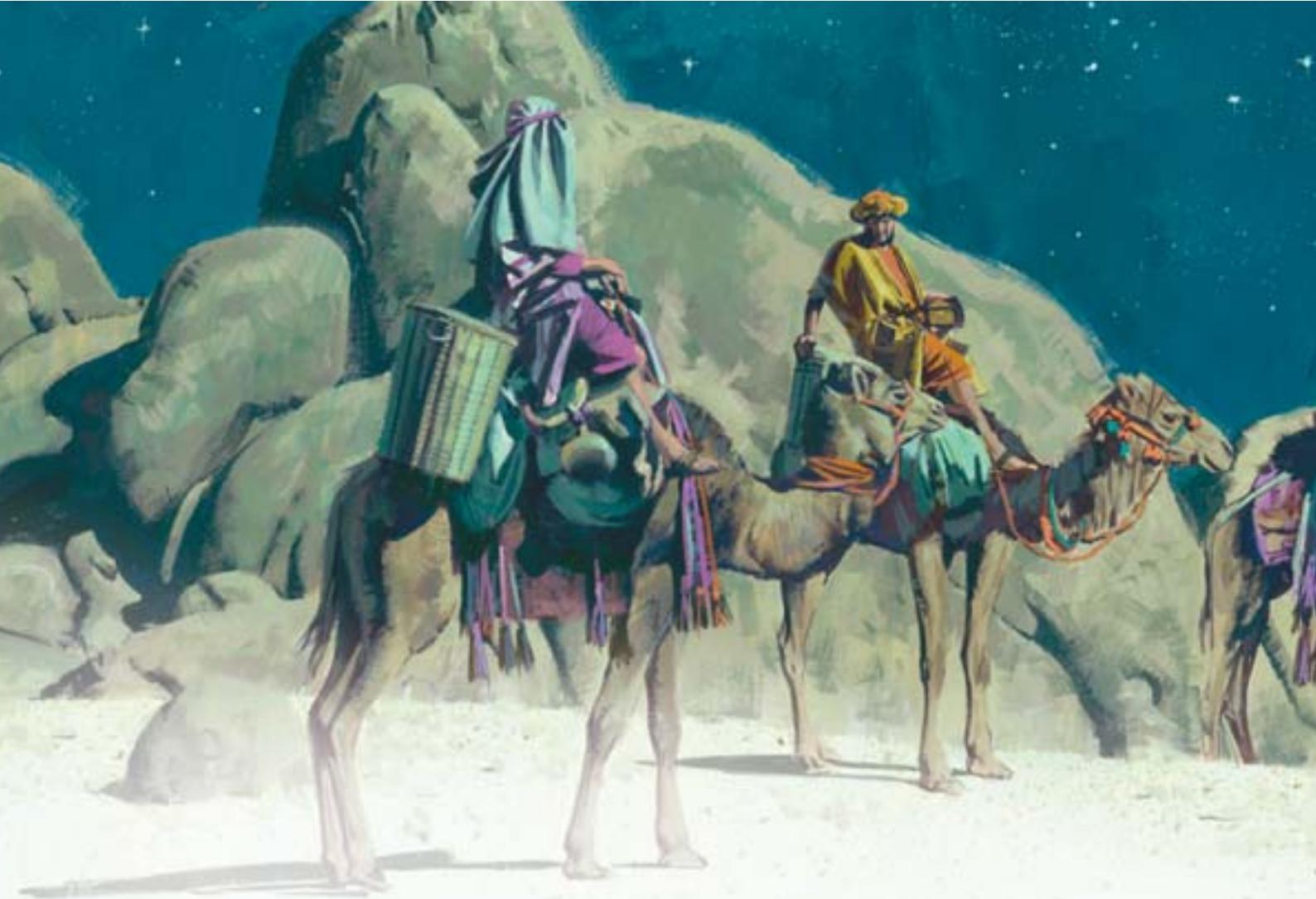
クリスマスイブに、わたしたちは彼女の部屋の前に立ち、ドアをノックしました。彼女はドアを開けてくれませんでした。わたしはもう少し腹を立て、みんなの努力は水の泡だったと父に言うところでした。しかし、見回すと、家族の全員がほほえんでいるではありませんか。自分たちがしていることに満足感を覚えていたのです。わたしも同じような気持ちを感じたいと思いました。

やがて、家主の女性はドアを開けてくれましたが、しばらくはどうしたらよいか分からないようでした。父は、彼女のために歌を歌いたいので、差し支えなければ部屋に上がらせてもらえないかと穏やかな声で言いました。彼女はわきに寄り、わたしたちを通してきました。わたしたちは覚えている限りのクリスマスの歌を歌いました。事前に練習していた歌も、そうでない歌も。しばらくすると部屋にはすばらしい雰囲気が漂いました。彼女には歌詞の意味が理解できないかもしれないということは分かっていました。しかしわたしたちが歌っている間、彼女はほほえんでいました。寂しい思いをしていて、わたしたちが一緒にいる姿を見ると自分の家族に会いたくなるとも言いました。帰る前に、わたしたちは、楽しいクリスマスと幸せな新年が迎えられるようにとあいさつし、礼を言われて部屋に戻りました。



A woman with dark skin and curly hair is shown from the chest up, looking thoughtfully upwards and to the right. She has her hand resting against her chin. In the upper right corner of the image, there is a colorful illustration of a family of five standing together. The father is holding a small child, and the mother is wearing a red headwrap. There are three other children standing to the right. The background behind the woman is a soft-focus scene of musical notes and decorative swirls.

その夜、わたしは眠る前に、一日の出来事を思い巡らしました。クリスマスのはんとうの贈り物とは、必ずしも店で買ったものや家で作ったものではないのだとふと思いました。ほんとうの贈り物は、実は、人を幸せにするために何かできることをするという姿勢や望みなのです。クリスマスの季節に上げられる最高の贈り物とは、たくさんお金をかけた贈り物ではなく、愛という贈り物だということがよく分かりました。■



博士たちは  
古来キリスト降誕の場面に登場する  
重要な人物ですが、  
実のところわたしたちは  
彼らについて何を知っているでしょうか。

ウェンディ・ケニー

**皆**さんは降誕の場面を描いた作品をじっくりと眺めたことがありますか。手の込んだ衣装を身にまとい、  
おさなご 幼子イエスに贈り物を携えて来た3人について思い巡らしたことがあるでしょうか。もちろん、3人の博士を表していることは知っていますが、彼らは一体どのような人物だったのでしょうか。なぜイエスのもとを訪れ、特別な贈り物を持って来たのでしょうか。

救い主の降誕に関する聖書の記述では、博士たちについてほとんど何も明らかにされていません(マタイ2章参照)。しかし、彼らの訪れは非常に重要であったため、学者たちは長年にわたって、彼らの素性や幼子イエスを訪れた目的につ

いて情報を探し求めてきました。学術研究を通して詳しいことが多少明らかになりましたが、クリスチヤンの間で3人の博士について昔から信じられてきたことは、史実よりも伝説や推測に基づいたものだったようです。

以下はわたしたちが知っている事柄です――

#### 博士は何人いたか

昔から、幼子イエスを訪ねたのは3人だったとされていますが、これは、贈り物が黄金、乳香、没薬の3つだったためです。一人が一つの贈り物を持って来たということでしょう。しかし中には、博士の数はもっと多く、12人いたのではないかと考える学者もいます。<sup>1</sup>『聖書辞典』(Bible Dictionary)には、博士たちは本来、救い主の降誕の証人という役割を担っていたので、少なくとも2人か3人いただろうと記されています(申命19:15; 2コリント13:1; 教義と聖約6:28参照)。<sup>2</sup>

博士たちが王であったとする説は、王たちが主を訪れるごとに預言した旧約聖書の一節を根拠としています。イザヤ書第49章7節には、「もろもろの王は見て、立ちあがり」とあり、また、イザヤ書第60章10節には、「彼らの王たちはあなたに仕える」と記されています(詩篇72:10も参照)。

# 「わかれら、 3人の王」



博士たちが王として記されている別の記録も見つかっています。13世紀にマルコ・ポーロが記した記録に、ペルシャのサバの町からの報告があり、3人の王が黄金、乳香、没薬を携えて、誕生した預言者を訪ねるために旅に出たと記されています。この記録によれば、彼らの名は、カスパール、メルキオール、バルタザールといい、今日では、博士たちの名前として一般的に受け入れられています。<sup>3</sup>

## 博士という言葉の由来

博士という言葉は、マゴイというギリシャ語の訳語です。マゴイ（英語ではマギ）の語源は実はペルシャ語で、古代ペルシャの宗教の祭司を意味します。このマゴイという言葉が使われていることから、博士たちはペルシャの一宗派の祭司だったのではないかと考える学者もいます。しかし、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915－1985年）

は、『新約聖書教義注解』（*Doctrinal New Testament Commentary*）の中でこう述べています。「彼らが古代メディア・ペルシャのマギであり、背教した宗派の一員であったと考えるのは恐らく誤りでしょう。むしろ、約束のメシヤが人々の中にお生まれになったことを天より示された真の預言者であり、シメオンやアンナ、そして羊飼いのような、義にかなった人々であったと思われます。」<sup>4</sup>

## 東方から来たのか

「わかれら、東洋から来た3人の王」（*We Three Kings of Orient Are*）というクリスマスの賛美歌（英文）がありますが、博士たちは東洋から来たのでしょうか。<sup>5</sup> 賛美歌の作詞者は、マタイの説明で使われている東方（east）という言葉に代えて、東洋（orient）という言葉を使いました。パレスチナよりも東の地域はどこでも、異国として東洋と呼ばれていました。マタイが大まかに「東方」としか言わなかったのは単に、博士たちがどこから来たのか、だれも知らなかったからでしょう。<sup>6</sup>



博士たちが現在のスペイン、エチオピア、サウジアラビア周辺から来た証拠として、「タルシシおよび島々の王たちはみつきを納め、シバとセバの王たちは贈り物を携えて来るよう」記されている詩篇第72篇10節を引用する学者もいます。ほかには、博士たちはペルシャ(現在のイラン)から来たと考える学者もいます。当時はユダヤの血統の民が大勢その地域に住んでいたため、博士たちもユダヤ人だったのではないかと主張する学者もいます。<sup>7</sup>

#### 博士たちはいつイエスのもとを訪れたか

キリスト降誕の場面を描いた芸術作品では概して、博士たちは救い主がお生まれになって間もなく訪れたかのように、生まれたばかりの赤ん坊を拝んでいます。しかし聖文を読む

と、博士たちがイエスのもとを訪れたのは、イエスが馬小屋でお生まれになったときでも、乳児期でもなかったことが分かります。博士たちが実際に訪れたのは、母マリヤのそばにいた幼児期のイエスでした。「そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、……黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。」(マタイ2:11)

#### 博士たちの贈り物

博士たちはなぜ、そのような珍しい贈り物を持って来たのでしょうか。ほとんどの学者は、贈り物が象徴であったという意見で一致しています。黄金はイエスが王であられることを、乳香はイエスの神性を、没薬は死者を葬る前に芳香づけのために使われるもので、イエスの苦しみと死を象徴しています。<sup>8</sup>

## 神の警告を受ける

ヘロデは博士たちをベツレヘムに遣わしたとき、このように言いました。「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから。」(マタイ2:8)しかし、マタイの記述によれば、博士たちは「夢でヘロデのところに帰るなどのみ告げを受けたので」幼子イエスを訪れた後で、ヘロデのところには寄らず、「他の道をとおって自分の国へ帰って」行きました(マタイ2:12)。ヘロデは激怒しました。博士たちが自分の命令を無視したからだけでなく、いつの日か国を治めることになる幼児がベツレヘムにいることが明らかだったからです。

## 主の用向きを受けて

『聖書辞典』(Bible Dictionary)には、博士たちに関してわたしたちの信じていることが非常によくまとめられています。「彼らは地上にお生まれになった神の御子の証人となるという用向きを受けた義人でした。……パレスチナ東部地域に住む主の民の一つの枝の代表として、御靈によって導かれ、神の御子を拝するために訪れました。そして自分の民のもとに帰り、王インマヌエルが確かに肉においてお生まれになったことを証したのです。」<sup>9</sup> ■

## 注

1. ジョン・A・トペドネス, "What Do We Know about the Wise Men?" *Insights: An Ancient Window* (Foundation for Ancient Research and Mormon Studies [FARMS] のニュースレター), 1998年12月号参照
2. Bible Dictionary, "Magi," 728
3. ジョン・A・トペドネス, "I Have a Question," *Ensign*, 1981年10月号, 25 – 26参照
4. ブルース・R・マッコンキー, "Doctrinal New Testament Commentary," 全3巻 (1966 – 1973年), 第1巻, 103
5. ジョン・ヘンリー・ホブキンズ・ジュニア, "We Three Kings of Orient Are" (1857年)
6. レーモンド・E・ブラウン, *The Birth of the Messiah* (1977年), 168参照
7. ジョン・A・トペドネス, *Ensign*, 1981年10月号, 25参照
8. ジョン・A・トペドネス, *Ensign*, 1981年10月号, 25参照
9. Bible Dictionary "Magi," 727 – 728



## 心からの贈り物

「では、イエスに出会ったとき、昔の博士たちのように、わたしたちの豊かな宝の中から贈り物をささげる備えはできているでしょうか。博士たちは黄金や乳香、没薬を贈りましたが、現在のわたしたちにささげる

よう求められているものは、それらとは異なっています。心の宝庫から自分自身をささげるようイエスは求めておられるのです。『見よ、主は心と進んで行う精神とを求める。』」

トマス・S・モンソン大管長「イエスの探求」「聖徒の道」1991年6月号, 5 – 6

# わたしの姉妹たち

の愛によって



「わたしたちは大丈夫よ。」  
訪問教師を安心させようと、そう伝えました。  
でも、彼女たちの助けによって、  
その年のクリスマスは一変しました。

マリナ・ペトロバ

クリスマスが近づくにつれて、わたしの心はますます沈んでいきました。11月の時点で、夫もわたしも定職に就いていなかったのです。減ってしまったわたしの収入から家賃と電気代と電話代を払い、夫のわずかな収入から車の支払いを済ませると、何とか生活するのがやっとのお金しか残りませんでした。12月に入って仕事量は増え、以前の収入に戻りましたが、お金は1月にならないと手に入りません。このような状況では、クリスマスのごちそうなどとても無理な話でした。

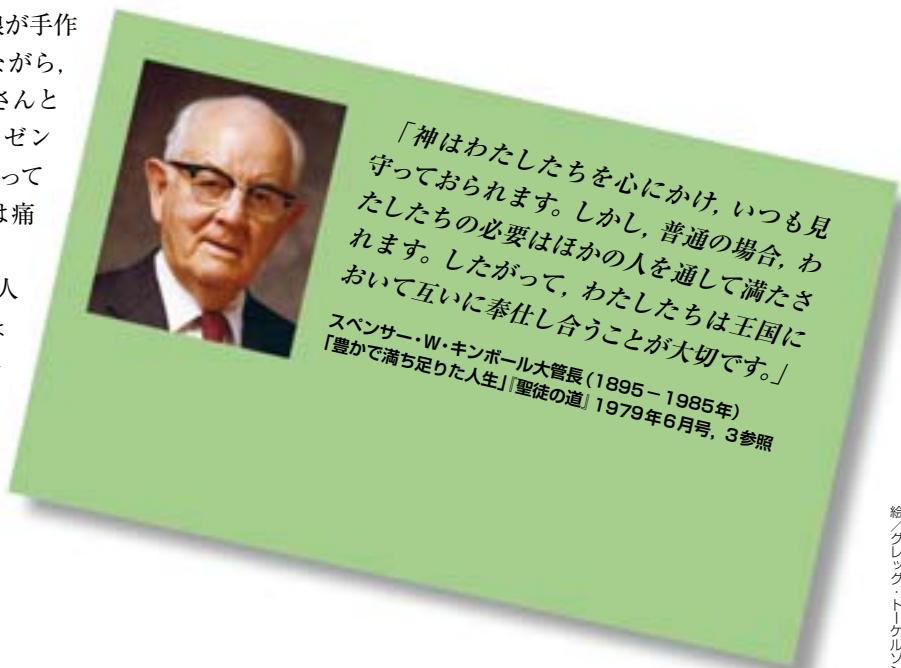
「きっと何もかもうまくいくわ。」わたしは自分に言い聞かせました。その年の夏、夫がたくさん摘んでくれたラズベリーで作ったジャムがありました。ジャムを載せたホットケーキと、手作りのプレゼントでお祝いすることができます。でも、6歳と8歳と14歳の3人の娘が手作りのリースを飾りながら、クリスマスにはお父さんとお母さんからどんなプレゼントをもらえるだろうと話し合っているのが聞こえ、わたしの胸は痛みました。

ある晩突然に、家庭訪問教師の二人が立ち寄ってくれました。わたしにはきょうだいが一人もいないので、支部の扶助協

会の姉妹たち、特に家庭訪問教師の姉妹たちは、わたしにとってほんとうの姉妹のようでした。その晩、二人からすばらしいレッスンを聞いた後で、間もなく訪れるクリスマスについておしゃべりしました。わたしは、何も問題はないから心配は要らないと言いながらも、いつもよりは「つましい」クリスマスになりそうなことを打ち明けました。二人はわたしたち家族のために祈っていると言ってくれました。

ある日、夫が仕事場に迎えに来ると、家で子供たちがわたしの帰りを今か今かと待っていると言いました。支部のある姉妹が、箱を幾つか置いて行ってくれたというのです。開けてみると、入っていたのは果物やクッキー、お菓子、食料、飾り、きれいにラッピングしたプレゼントなど、クリスマスにぴったりなすてきなものばかりでした。感謝の涙があふれました。それだけではありません。驚いたことに、クリスマスの朝、訪問教師の一人の姉妹が家族とともに、贈り物が幾つも入った箱を持って来てくれたのです。

結局、「つましい」はずのクリスマスは、この上なく喜びにあふれたクリスマスになりました。わたしたちの家庭はクリスマスの精神で満たされただけでなく、訪問教師や支部の会員たちの温かい愛に包まれました。主はほんとうにほとんどの場合、人を通してわたしたちを助けてくださいます。とりわけ、わたしたちを見守り助けるよう特別に召され、靈感を受けた人を通して、必要を満たしてくださることが分かりました。■



絵／グレッグ・トーケルソン

十二使徒定員会  
ニール・L・アンダーセン長老

ス

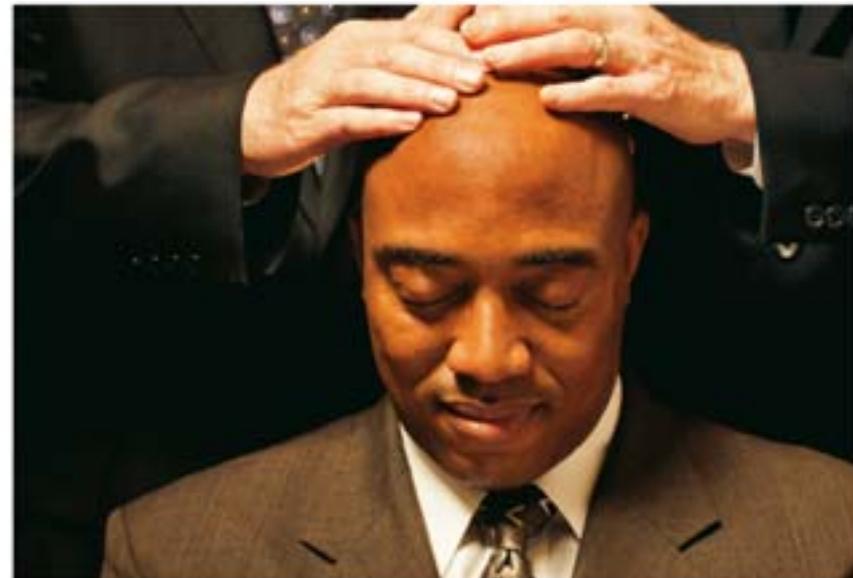
テーク会長を召すことは神聖で靈的な経験です。大管長会の指示により、中央幹部と地域七十人がこの責任を託されています。わたしは中央幹部として16年間奉仕する間、北アメリカから南アメリカ、ヨーロッパからアジアに至る多くの文化圏や大陸において、この責任を果たしてきました。

そのようなとき、わたしはいつも二つの教えを心に留めてきました。いずれも中央幹部に召されてからの数週間のうちに得た教訓です。一つは、トマス・S・モンソン大管長から受けた「主の用向きを受けているときは、主の助けを受ける資格がある」という教えであり、もう一つは、十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長から受けた「務めを果たすとき、分からぬことがあるても、幕の向こう側におられる主にお尋ねすれば、すぐに答えを受ける」という教えです。

# ステーク会長に授



わたしはこれまで  
何百人という  
ステーク会長に会いました。  
多くのことを達成してきた、  
高潔な人々です。  
信仰にあふれ、  
主に喜ばれたいという  
確固とした願いを  
持っています。



この二つの約束は必ず成就しました。

ステーク会長を召すという経験は常に同じであります。常に違っています。同じ点は、ステークに赴く二人の中央幹部または地域七十人は、圧倒されるほどに、主に頼る必要性を感じることと、召しを伝える前に二人とも同じ靈感を受けなければならないということです。ステーク会長が選ばれるまでの間、主の御靈<sup>みたま</sup>は常に力強く支え、確認を与えてくれます。違う点は、ステーク会長に召される人は、ステークによってまったく異なるということです。長年にわたって奉仕してきた経験豊富な人もいれば、信仰にあふれた年若い人もいます。職業は様々です。

#### かぎ 鍵の授与

その時点ではステークの指導者として召されていいる人の中からステーク会長

の教師をしていた兄弟と夜10時に会ったとき、彼こそ主が選ばれた人であるという力強い確認を受けました。彼が召されてから分かったのですが、彼は家にいて、わたしたちからの電話を待っていたということです。ステーク会長会の再組織が発表される数か月前のある晩、彼

たしたちは、  
**わ** 新しい  
ステーク会長の  
頭に手を置き、  
ステークの業務を管理し、  
尊くために必要な  
かぎ  
神権の鍵を授けます。



# けられる たまもの 靈的な賜物

となる人が見つかる場合がほとんどですが、例外もあります。あるとき、夜遅くまで兄弟たちと面接したことがありました。しかし御靈の確認を受けないまま、ついにリストに挙がった全員と面接し終えてしまいました。そこで、指導者の立場にないながらも、人望の篤い兄弟たちと面接することにしました。福音の教義クラス

と妻は夜中に目を覚ました。そしてその時には彼が召されるだろうということが知らされていたのでした。

ステーク会長として奉仕する人々は、自分からその職を求めたりはしません。召しを告げられると、だれもが謙虚になりますし、中には圧倒されるような思いを抱く人もいます。ヨー

ロッパで、教会員になってまだ10年ほどしかたっていなかつた兄弟をステーク会長に召したとき、彼は、「そんな、わたしには無理です。できません」と言いました。幸い、傍らにいたすばらしい妻が、彼を抱き締めて言いました。「あなた、あなたにはきっとできるわ。わたしには分かるわ。」彼女の言ったとおり、彼はすばらしい働きをしました。

フィリピンでは、非常に若い指導者のもとで教会が急速に発展しています。その様子を見てきたある兄弟は、ステーク会長に召されたとき、こう言いました。「そんな、わたしには無理です。わたしは年を取りすぎています。」十二使徒の中には彼より30歳年上の人人がいることを話すと、彼は召しを受け入れ、そして非常にすばらしい働きをしました。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた」と救い主は言われました(ヨハネ15:16)。わたしたちは召しを求めるとも、拒むこともしません。

召しを受ける前や受けている間、あるいはその後に、主は本人に、その召しが神からのものであることを確認してくださいます。ある年若いステーク会長は、確認を受けたときのことについて、このように話してくれました。

「面接を受けたとき、わたしは32歳で、ビショップに召されて約4年がたっていました。面接してくれた指導者の一人から言われた、『あなたはどのように証を得ましたか』『救い主について、あなたの証を分かち合っていただけますか』という二つの問い合わせが、胸に強く響きました。わたしが10代のとき、母が亡くなったすぐ後に、回復された福音、特にモルモン書が真実であるとわかったときのことを話しました。

救い主について証を伝えているとき、自分が新しいステーク会長に召されるという確認を受けました。家に帰って、妻にその経験を話しました。新しいステーク会長に召されるかもしれないと話すと、妻はこう言いました。『あなたはいい人だけれど、そこまでじゃないわ。』2時間後電話が鳴り、妻を連れてもう一度来るようにと言われました。そして召しを伝えられたのです。」

ステーク大会一般部会で賛意の表明がなされた後、わたしたちは新しいステーク会長の頭に手を置き、ステークの業務を管理し導くために必要な神権の鍵を授けます。ステークを管理する鍵は、地上のすべての鍵を持つ大管長とほかの14人の使徒から委任されます。この鍵に靈的な権能と力が含まれています。

主はいつの時代にも、御自分が選ばれた使徒たちに鍵を授けてこられました。主はペテロに次のように言われました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ16:19) この中の幾つかの鍵が地元の指導者に与えられています。ゼラヘムラあんしゅでは、アルマが「神の位に従って、あんしゅ按手により、教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任しました(アルマ6:1)。

### 鍵の力の現れ

興味深いことですが、神殿推薦状を受けるために大管長の署名を必要とした時期がありました。現在では、この権能はステーク会長に委任された鍵の中に含まれています。ステーク会長は顧問とともにビショップを大管長会に推薦し、承認を受けてから聖任します。また、メルキゼデク神権に聖任される人を承認し、専任宣教師を推薦して任命し、さらにイスラエルの判士として、重大な罪を犯した人が完全な赦しを得られるように助けます。ステーク内のビショップや支部会長の働きや決定事項について指導します。

これらの働きにおいて、主はステーク会長に啓示を下されます。合衆国南部に住むあるステーク会長が次のような経験を話してくれました。

「2007年10月、ある姉妹が神殿推薦状の面接を受けに来ました。面接の中で、彼女の後に、ご主人が推薦状の面接を受けに来るかどうか尋ねました。すると彼女は、夫は20年以上神殿に行っておらず、結婚して40年になるけれども神殿で結び固めを受けていないと言いました。わたしはその兄弟とすぐにも会うべきだと強く感じました。促しがあまりに強かったので、わたしはすぐに部屋を出て、建物の反対側にいた彼を見つけ、事務室に連れて来て面接しました。その後、ビショップにも同席してもらい、神殿推薦状を発行しました。わたしたち全員にとって、特に彼の妻にとって、非常に感動的な経験でした。その週のうちに、彼らの神殿の結び固めに招待されました。」

2008年の初め、この夫婦が結び固めを受けてから約4か月後、兄弟が朝起きて仕事に行こうとしたときに突然倒れ、自宅で息を引き取りました。わたしは御靈の導きに聞き従い、この世でまさに必要だったことをするようこの兄弟に勧めることができたことを、永久に感謝します。」

**ス** テーク会長は、  
メルキゼデク  
神権に  
聖任される人を承認し、  
神殿推薦状を受ける  
会員と面接し、  
イスラエルの判士を  
務めます。



### 靈的な賜物と靈的な約束

ステークは「防御のためとなり、また嵐……あらし〔からの〕避け所となる」と主は言われました（教義と聖約115：6）。ステーク会長は主の羊飼いであり、教会という親しい交わりの中で、会員たちが安心感と靈的な守りを感じられるように助けなければなりません。真実で純粹な教義が教えられるように、注意深く見守る必要があります。ゴードン・B・ヒンクリー大管長（1910－2008年）はかつてこう語りました。

「アロン神権の教師の義務は、ステーク会長にも当てはまるでしょう。『[ステーク全体]を見守り、[会員]とともにいて彼らを強める』のです。

『教会の中に罪惡がないように、互いにかたくなることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らうことであり、

また教會員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たせるように取り計らう』のです。」（教義と聖約20：53－55）<sup>1</sup>

**ス** テーク会長は  
主の  
羊飼いであり,  
教会という  
親しい交わりの中で、  
会員たちが  
安心と靈的な守りを  
感じられるように  
助けなければなりません。



ステーク会長の務めには、家族を強め、若い世代を堅固に育て、罪を清めるバプテスマの水にもっと多くの天の御父の子供たちを招き、教会から離れてしまった人たちに手を差し伸べ、生きている会員とすでに世を去った人々に神殿の儀式をもたらす方法について靈感を受けることが含まれます。

この重要な責任のすべてを果たせるように、主はステーク会長に、靈的な賜物を豊かに祝福してくださいます。教義と聖約第46章で、主は多くの靈的な賜物を挙げた後で次のように言われました。

「すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない。賜物は多くあり、各人に神の御靈によって一つの賜物が与えられるのである。

ある人にはある賜物、またある人には別の賜物が与えられて、すべての人がそれによって益を得られるようになっている。」(教義と聖約46:11-12)

主はさらにこのように言われました。「教会を見守るように……神が選んで聖任する人々には、それらすべての賜物を見分けることが許される。……一人の長がいるようにし、すべての会員がそれによって益を得るためにある。」教義と聖約46:27, 29)

時に、これらの賜物には、主が成就してくださる靈的な約束が伴います。ブラジルでステーク会長を務めたある兄弟が、次のような経験を話してくれました。

「忠実な母子世帯の母親が、4人の10代の子供を抱えて、経済的に苦しい状況に置かれていました。わたしが『子供さんたちは欠かさずセミナリーに通っていますか』と尋ねると、『いろいろ難しいことがありますし、家は教会から遠く、通わせるのは危険なのです』という答えが返ってきました。そのときわたしは、彼女に勧告し約束を与えるようにという強い促しを感じました。『お金がないなら、たとえ遠くても子供たちと一緒に歩いてください。一緒に行き、クラスに出てください。そうすれば、子供たちを救うことができます。全員が神殿で結婚する

でしょう。』わたしは自分の言ったことに驚きながらも、力強い促しを無視することはできませんでした。

勧告を受け入れた彼女は、何年もの間、子供たちと一緒に歩いてセミナーに通いました。約束は今成就しています。全員が神殿で結婚し、息子はビショップを務めています。』

恐らく、ステーク会長に与えられる最もすばらしい賜物の一つは、その召しを通して仕える人々に対して、愛が深まり、広がることでしょう。わたしがステーク会長として召されたとき、ステークの会員たちに対して力強い愛と思いやりが胸にあふれ、畏敬の念を抱いたほどでした。重大な罪を犯した人たちに対しても、深い思いやりを感じ、助けたいと強く願いました。このような愛は、会員が救い主を心から信じ、回復された福音に真に帰依できるように助けたいという望みと常に結びついています。わたしは長年ステーク会長会の顧問として働いてきましたが、会長として管理する鍵を頂いたとき、その望みはさらに強くなり、行動に駆り立てる力となりました。モルモンが語った慈愛の賜物の幾分かを受けたのだと思います。「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:48)

ステーク会長がこのような思いに満たされて人々に手を差し伸べるとき、奇跡が起こります。南アメリカのあるステーク会長は、このような愛に突き動かされて、迷い出た羊を捜しに出かけた経験について次のように書いています。

「わたしはあるとき、何年も前の宣教師時代に同僚としてともに働いた兄弟のことを思い出し、彼を見つけなければならぬと強く感じました。彼は結婚しており、教会には集っていませんでした。会員記録はステークセンターから150キロ離れた小さな支部にありました。わたしはその地を訪れ、支部会長と話しました。すると、彼がさらに遠い地域に住んでいることと、その小さな村までの行き方を教えてくれました。しばらく行くと、アスファルトの道路は砂利道に変わりました。さらに何キロか行ったところで、道に迷ってしまったことに気づきました。車を止め、もうあきらめようかとさえ思いました。とても暑い日で、車にエアコンはありません。舞い上がる土ぼこりは、妻や子供たちにとって堪え難いものでした。わたしは道端にひざまずき、主に助けを願い求めました。

数時間後、わたしたちは小さな村に到着し、そこでかつての同僚を見つけました。彼に教会に戻って来てほしいと伝えました。彼は教会に集うようになり、指導者として多くの

召しを果たしました。彼の息子は立派に伝道を終えました。そして今、わたしの友であり、同僚であった彼は、ビショップリックの顧問として奉仕しています。』

この職には力があります。主は、御自分が召したステーク会長の傍らに立っておられます。エケアドルのステーク会長はこのように語っています。「ステークの中に、浮かない表情をした男性がいました。ある日わたしは、この男性と話すべきだという強い気持ちを感じ、すぐに彼の家まで車を走らせました。すると彼は、自分が悲しんでいるのは、数年来、父親と一言も言葉を交わしていないからだと話してくれました。父親は頑固な人で、その父親から親子の縁を切られてしまったと言うのです。わたしは彼に、仲直りしたいと思っているかどうか尋ねました。それから二人で父親の家に向かい、家の前に車を止め、ドアをノックすると、『だれですか』という返事がありました。父親の声だと分かり、わたしは答えました。『あなたのステーク会長ですよ、兄弟。』彼はドアを開け、わたしと自分の息子が並んでいるのを見ました。一言も言わずに二人は抱き合い、泣き始めました。二人の仲は元どおりになりました。』

世界には2,800人以上のステーク会長がいます。多くの点で、彼らは皆さんやわたしと同じように普通の人です。同じように、自分の救いのために努力しています。しかし、彼らは特別な召しを受けています。頭に手を置かれ、神権の鍵を授けられているのです。

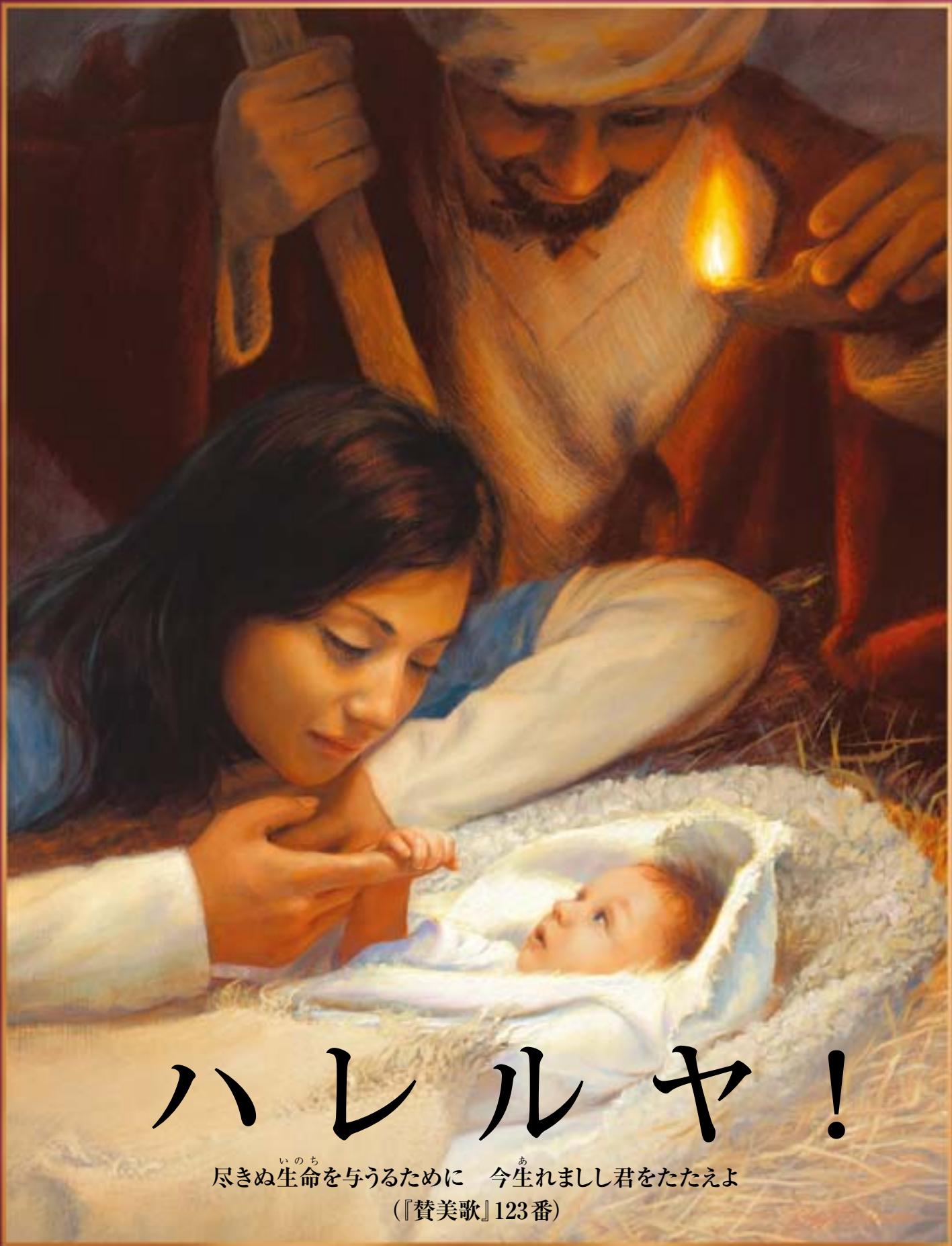
わたしはこれまで何百人というステーク会長に会いました。私生活でも仕事でも、多くのことを達成してきた、高潔な人々です。信仰にあふれ、主に喜ばれたいという確固とした願いを持っています。

わたしは彼らの家に滞在し、ともにひざまずいて、天の御父に心から願い求める祈りを聞きました。主の力が注がれるのを感じました。主は彼らを愛し、霊的な賜物を授けてくださいます。

わたしたち一人一人が、ステーク会長のために祈りましょう。傍らに立ち、助けましょう。耳を傾け、信頼しましょう。「イスラエルは……救われるであろう。わたしが与えた鍵によって彼らは導かれ、もはや決して乱されることはない。」(教義と聖約35:25) ■

#### 注

1. ゴードン・B・ヒンクリー「ステーク会長」『リアホナ』2000年7月号、61



# ハレルヤ！

いのち  
尽きぬ生命を与るため 今生れましし君をたたえよ  
(『贊美歌』123番)

# 思いやりに満ちた奉仕を通して 養い育てる



以下の聖句や言葉、または必要に応じて、訪問先の姉妹たちに祝福をもたらす原則を教えてください。その教義について証してください。また、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。<sup>あかし</sup>

## 思いやりをはぐくみ、高めるにはどうしたらよいでしょうか。

**モロナイフ：48**——「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」

**大管長会第二顧問 ディーター・F・ウークトドルフ管長**——「いつの時代にあっても、キリストの弟子はその哀れみにおいて目覚ましい働きをしてきました。……最後に、ささげる祈りの数がわたしたちの幸福に役立つことがあります。しかし、神の代理としてわたしたちがこたえる祈りの数の方が、さらに大切なではないでしょうか。目を

大きく見開いて、だれかの沈んだ心を見いだし、孤独と絶望に気づきましょう。周囲でささげられている沈黙の祈りを感じましょう。そして、そのような祈りにこたえるために、主の御手に使われる者となりましょう。」(『幸福、わたしたちの受け継ぎ』『リアホナ』2008年11月号、119、120参照)

**中央扶助協会第二顧問 バーバラ・トンプソン**——「神の娘として自分の務めを果たし、神の王国を築けるように、『心の奥深くに眠っている最も優れたものをすべて』解き放つ必要があるのです。そのためには助けも与えられます。ジョセフ・スミスはこう宣言しています。『もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんのお友とならずにはいられないでしょう。』

互いに重荷を負い合い、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることによって、交わした聖約を守りましょう(モーサヤ18:8-10参照)。」(『さあ、喜びましょう』『リアホナ』2008年11月号、116)

## 思いやりに満ちた奉仕を通して、どのように養い育てることができますか。

**教義と聖約81:5**——「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい。」

**十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老**——「良い羊飼いは、『わたしの小羊を養いなさい』(ヨハネ21:15)と言われました。女性は救い主がされ

るよう、愛する人々を養い、支えや援助の手を差し伸べるのです。神から授けられた賜物は、子供を養い、助け、貧しい人を世話し、悲嘆に暮れる人を慰めることです。

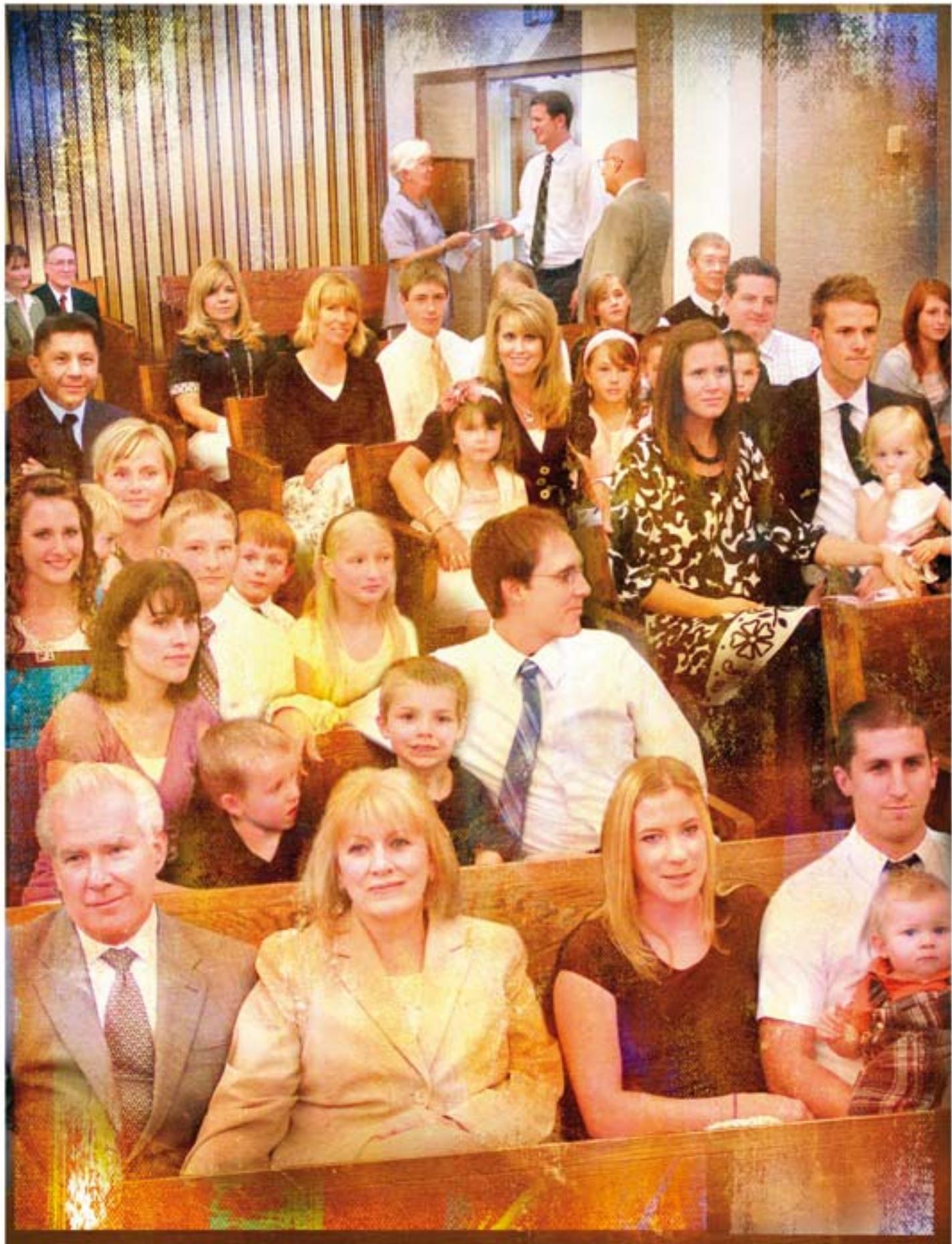
主は言われました。『人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。』(モーセ1:39) そこで献身的な主の娘たちはこう言うことでしょう。『愛する人たちが神の目的を達成できるように助けること、これがわたしの業であり、わたしの栄光です』と。

ほかの人が昇栄できるように助けることは、女性の神聖な使命の一つです。母として、教師としてあるいは人々を導く聖徒として、女性は生ける粘土を望みの形に作り上げるのです。神との協力において、靈の子供たちに物心両面で生命の糧を与えるのが女性の神聖な使命なのです。これこそ女性が造られた目的と言えましょう。』(『女性——その計り知れない価値』『聖徒の道』1990年1月号、22参照)

## 中央扶助協会第一顧問 シルビア・H・オールレッド

——「主は女性に、愛、思いやり、親切、慈愛という天与の特質を祝福しておられます。訪問教師としての毎月の訪問の際に、愛と親切の手を差し伸べ、思いやりと慈愛の賜物をささげるときに、一人一人の姉妹を祝福することができます。……わたしたちが主体的に、喜んで家庭訪問を行うに際して、愛と思いやりの腕を差し伸べて、互いを祝福し、助け、強めるというさらに大きな決意をすることができますように。」(『わたしの羊を養いなさい』『リアホナ』2007年11月号、113、115参照) ■





けいけん

# 敬虔さ

## を通して礼拝する

ロバート・C・オーカス長老

七十人として奉仕(2000-2009年)

ビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)の次の助言は、敬虔さというテーマを大局的な観点から明確にとらえています。「敬虔とは、愛を伴う深い敬意です。」<sup>1</sup>『子供の歌集』にある次の歌は、この観点に対する理解をさらに深めてくれます。

静かに深く主思う  
それが敬虔  
主を愛し、主に感謝しよう  
敬虔とは愛<sup>2</sup>

聖文の中で、敬虔に関連して最も頻繁に用いられている核となる言葉は、敬意、愛、そして尊敬です。これらの基準から考えると、敬虔とは口をつぐんで静かにすることだけでなく、心の働きも表すものであることが分かります。

敬虔さは礼拝に不可欠な要素です。十二使徒定員会のダリン・H・オーカス長老はこのように教えていました。

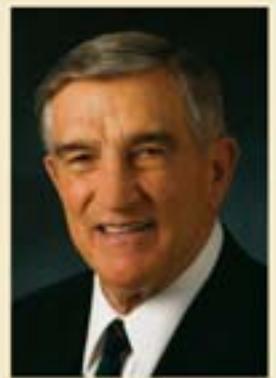
「礼拝にはしばしば行いが含まれますが、真の礼拝にはいつも、精神面における特別な態度が伴います。

礼拝の態度は、最も深い忠誠心と敬愛と畏敬の念を呼び起します。礼拝するとき、愛と敬虔さが結び合わり、その状態がわたしたちの靈を神に近づけてくれるのです。」<sup>3</sup>

確かに、礼拝の場所に入る第一の目的は神に近づくことです。

イエス・キリストの生涯と教えを研究し、主のあがな頤いがこの世と永遠の両方においてわたしたちの生活に及ぼす驚くべき影響について正しく理解するとき、必然的に敬意と愛と尊敬の気持ちが生じます。そしてその気持ちを表現するふさわしい手段として、わたしたちは福音に従い、クリスチヤンとして奉仕するのです。しかし、敬虔さがなければ、敬意と愛と尊敬を完全な形で表すことはできません。

イエス・キリストに対して敬虔な思いを持つようになると、よりいっそうキリストの完全な模範に倣って生活することができます。そのような敬虔な態度には多くの面があります。すなわち、主が生きておられるという信仰、主が約束された祝福への信頼、そして福音の標準への従順などです。しかし最も大切な面の一つは、心の中で神に対して抱く、敬意と愛と尊敬です。主



敬虔さとは、  
驕がしくしないこと  
以上のものです。  
心から  
敬虔であることには、  
耳を傾けること、  
神に関する事柄に  
思いをはせること、  
そして天の御父と  
その御子  
イエス・キリストに対して  
敬意と愛と尊敬の念を  
抱くことが含まれます。

を敬愛し、尊敬する人は決して主の御名をみだりに唱えず、主を侮辱したり、卑小化したりする冗談に不快感を覚えるでしょう。反対に、天の御父と、主および救い主として拝む御方をほめたたえ、あがめるのです。

## 敬 虔さの重要な面の一つは、 心の中で神に対して抱く、 敬意と愛と尊敬です。



主はレビ記第19章30節の中で、どのような敬虔さを期待しているかを明確に語っておられます。「あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。」わたしたちが主の神殿や教会堂に対して示す敬意は、心の中で主に対して抱いている敬虔な思いを映し出しています。主への敬意と愛と尊敬がどの程度のものであるかが、わたしたちの敬虔さに直接映し出されて、礼儀正しさや態度に表れるのです。

### 敬虔さがもたらす祝福

預言者ジョセフ・スミスは、1836年にカートランド神殿の奉獻の祈りの中で、敬虔さを理解するうえで役立つ興味深い言葉を述べています。ジョセフは、悔い改める人が立ち返り、「あなたの宮であなたを敬う人々に注がれると定められた数々の祝福を回復されますように」と祈りました(教義と聖約109:21)。そしてこの祈りでは、それらの祝福がどのようなものであるかが明らかにされています。すなわち、敬虔な人は知恵の言葉を教わり、聖霊の全きを受け、主の御前に恵みを

得、神の力を帯び、赦しを受けるのです(14, 15, 21, 22, 34節参照)。敬虔さから受ける報いはまさに偉大です。

教会で敬虔さについて語るとき、多くの場合、礼拝の場所で静かにすること、特に子供が静かにしていることに重点が置かれます。もちろん静かにすることは敬虔の大切な一部ですが、敬虔という概念には、話し声や騒音がないこと以上の、もっと完全で豊かな意味があります。静かにすることは必ずしも敬虔と同じではないのです。

礼拝堂は第一の、最も重要な礼拝の家です。前奏が流れている間静かに座り、回復された福音のすばらしさについて瞑想し、

聖餐を受ける前に心と思いを備え、天の御父の莊厳さと救い主の贖いの偉大さに思いをはせることができる場所であるべきです。神聖で重要な事柄について熟慮するのに、これ以上の場所があるでしょうか。このようにして礼拝の気持ちを表すとき、必然的に敬虔な態度が伴います。

そのような礼拝の機会はわたしたちの信仰を強めるうえで重要であり、心の中に証と啓示が流れ込む通り道を作ります。わたしはこのことを劇的な形で身をもって学びました。ある日曜日、座って聖餐会の前奏曲を聞いていたときのことです。妻とわたしは生活の中のある疑問に関して靈的な導きを求めていました。すると感謝すべきことに、前奏に選曲された賛美歌を通して答えが与えられたのです。美しい調べとともに、御靈がはっきりとわたしたちの進むべき方向を示してくれました。しかし残念なことに、賛美歌の途中で近くに座っていた人が近寄ってわたしに話しかけてきたので、御靈はすぐに退いてしまいました。甘美な啓示の宝が、敬虔さの欠如によって阻まれてしまったのです。

この経験から、静かに前奏曲が流れる神聖な時間に対して

特別な感謝の念を抱くようになりました。十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長は、この真理を次のように強調しています。「敬虔さを失わせることは、まさしくサタンのもくろみなのです。知性と靈性の両方における啓示の伝達経路を妨害することになるからです。」<sup>4</sup>

### 敬虔になる方法

敬虔になる方法は難しいものではありません。この世のつまらない事柄が心に入り込むのを許さず、敬虔な場所や時間においては思いを制して、贅いの莊厳さ、永遠の家族、回復された完全な福音など、神にかかわることについて考えるようすべきです。敬

虔になる方法の中には、振る舞いを制して、敬意と愛と尊敬の態度を反映したものとすることも含まれます。さらに、現代に蔓延している非常にくだけた服装を避け、最上の、慎み深い服装をし、教会の建物の中で大きな声で話したり、雰囲気を乱したりしないようにすることも含まれます。また、礼拝堂ではさらに静寂な雰囲気を作ります。聖餐の儀式を行っているときは特にそうです。

敬虔に振る舞いたいと望む人は、何らかの理由で集会の途中で退出する必要のあるときには、あらかじめ後ろの列の出入り口に近い席に座り、静かに退出できるようにします。集会の途中で出て行くこと、特に話などの最中に退室することは、話者や近くに座っている人々の迷惑になります。主とほかの人々への敬意から、そのような時機をわきまえない行動を取らないようにしましょう。

時々、会衆の敬虔さがその場にいる子供たちの振る舞いと同一視されることがあります。確かに、幼い子供は敬虔さを保つうえで特に問題となることがあります。しかし、子供に関する第一のルールは、彼らを教会に連れて来ることです。わ



敬  
虔な場所や時間においては  
思いを制して、  
神にかかわることについて  
考えるようにすべきです。

たしたちは子供たちに教えて、必要なときには礼拝堂の外に連れ出して、また中に連れて戻ることができます。教える際、おもちゃや食べ物など、教会に持参する訓練道具は最小限にとどめる方がよいでしょう。末日聖徒の集会には一般に、恵まれて大勢の子供や青少年が集っています。わたしたちはこのことに感謝すべきです。彼らは教会の未来なのです。

心からの敬虔さは天の御父と主を礼拝するための重要な一部です。日々の活動や心に抱く思いの中で、御二方への敬虔さを欠くものを避けることができますように。礼拝のために行うあらゆる活動において、天の御父とその御子イエス・キリストへの敬意と愛と尊敬の思いを深め、豊かにしようと努めることができますように。そのような思いは、眞のクリスチャンの人格を表すしるしなのです。■

### 注

1. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1967年4月号, 86
2. 「敬虔は愛」『子供の歌集』, 12
3. グリン・H・オーツス, *Pure in Heart* (1998年), 125
4. ボイド・K・パッカー「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号, 24

# なぜわたししか?\*

エリザベス・クイグリー

**な**ぜわたししなのでしょうか。なぜ今なのでしょうか。  
わたしはカリフォルニア州で開かれた大きな馬術大会から帰ったばかりで、障害飛越競技の騎手生活の絶頂期にいました。学校の勉強、ピアノのレッスン、ビーハイブの活動で忙しい毎日でした。教えられていたことをすべて行い、これ以上充実した生活はないと思っていました。それが、ある日一変したのです。

## 試 練

わたしは目も開けられないほどぐったりして、病院のベッドに寝ていました。急性リンパ芽球性白血病と診断されたのです。発病したのは、母が同じような癌で亡くなつてからわずか4年後のことでした。癌をなくすために、強い化学療法を受けました。医者には、癌を確実に全滅させるには2年半化学療法を受けなければならないと言われました。なぜ自分が、この時期に病気になってしまったのか理解できませんでした。

間もなく、わたしは癌と診断されること以外にも困難が待ち受けていたことを知りました。白血病の治療では、薬の一つとしてステロイドが大量に投与されます。この薬は白血病細胞を効率よく退治してくれますが、特に10代の少女の場合、無血管性骨壊死(関節に近い骨が死ぬ症状)になる可能性が少しあるのです。医者は、12歳のわたしはまだ若いからその副作用はないと考えていました。ところが、化学療法を始めて1か月後、ステロイドによってわたしの主要な関節のほとんどと、背骨の数箇所が損なわれてしまいました。わたしは絶えず痛みに悩まされていました。白血病と診断されて4か月後、ステロイドに壊されたところを治して痛みを和らげるために、最初の股関節手術を受けました。手術は期待したほ

どうまくいかず、整形外科医からは二度と馬に乗れないだろうと言われました。夢見ていた未来が突然崩れていきました。

学校では成績も良く、心から学校生活を楽しんでいました。しかし今や、化学療法で免疫器官を壊されてしまったために、学校へ通うどころか、人前に出ることすらできず、自宅で義母と一緒に過ごしていました。ここまででも十分大変だと思っていたが、事態はさらに悪くなつていきました。

股関節を手術してから6か月後、最初の手術が失敗に終わったために2度目の手術を受けなければなりませんでした。歩くと痛みが激しかったので、車いすに乗っていました。もう二度と馬に乗れないことは確信していましたが、今では歩くことさえできなくなるのではないかと不安でした。病気を抱えて、絶え間ない痛みに苦しみながら一生車いすで過ごすのは、楽しそうに思えませんでした。

## 祈 り

自分でも天父に祈っていましたし、わたしのために祈ってくれている人がたくさんいることも知っていました。一連の試練の中で、わたしは自分が癒されるように祈っていました。関節が元に戻って、もう化学療法を受けなくてよくなりますように、と。でも自分の祈りが聞き届けられているようには思えませんでした。やはり化学療法を受けるために、毎週ソルトレーキ・シティーのプライマリー子供医療センターに行かなければならなかったからです。痛みはまだありましたし、相変わらず車いすに乗っていました。一時、病気の哀れな少女の声さえ聞いてくださらない神を信じているなんて、両親はどうかしていると思い始めました。

何年も前、母がよくなるように祈っていたときにも同じよう



逆境を通じて、  
この疑問について、  
また何であれ  
あまり大切なこと  
については  
悩む必要がないことを  
学びました。

信仰の試しを受けました。母はいつも酸素マスクを着けて、家の中を歩くこともできなくなり衰弱していました。わたしは母が奇跡的に治るように、祈っては期待して、さらに祈りました。でも母は治りませんでした。母が亡くなった後、望んでいることは幾らでも祈れるけれども、祈りの答えを受けるためには正しいことを、つまり主の御心が行われるように祈る必要があるということを学びました。

その教訓を思い出して、わたしは自分の祈りを変えました。「癒してください」という祈りから、「天のお父さま、この試練が早く終わってほしいとほんとうに思います、お父さまの御心を受け入れます」という祈りに変えたのです。するとすぐに、化学療法にもっと容易に耐えられるようになり、自分の態度が良くなっていることに気づきました。この時から祝福が注がれ、祈りがこたえられ、疑問が解決し始めました。

父と祖父は何度も神権の祝福をしてくれました。手術を受けるときは、いつも祝福をしてくれるよう頼みました。祝福によって、わたしと家族は安心して手術に臨めました。ある日、高熱が出て、病院に行かなければなりませんでした。家を出る前に、父と近所の人に祝福をしてもらいました。すると救急

出入口に到着するころには熱が下がっていて、病院に泊まらないで済みました。神権の力が愛ある天父からの賜物であることを知っています。

### 学んだ教訓

いつまでも忘れられない出来事の一つは、白血病と診断された後に退院した日のことです。わたしが両親のそばで生活し、階段を使わないので済むようにと、若い女性や扶助協会の姉妹たちが、自宅の地下にあったわたしの荷物を1階の部屋に移動してくれていました。療養の間そこが最高の部屋となるように、掃除して、飾ってくれていました。わたしたち家族はほかにも人々の奉仕をたくさん受けました。初めは奉仕を受けることに抵抗がありました。人に奉仕されると、自分は何も独りでできないような気がしたのです。でも、助けを求めてよいのだということがすぐに分かりました。そして、具合が良くなり始めると、もっと人に奉仕する機会を探すようになりました。今はできるかぎり奉仕するように努力しています。人に奉仕をすると良い気持ちになります。人の奉仕を受け入れることで、その人にも同じ良い気持ちを味わってもらえるの





エリザベスは今年3月に開かれた中央若い女性集会でオーボエを演奏しました。

(演奏は [www.generalconference.lds.org](http://www.generalconference.lds.org) で視聴できます)

だということが分かりました。

死の一歩手前を経験したおかげで、将来や自分の選択についてよく考えるようになりました。学校で、今日は髪形が思うようにならないと文句を言っている女の子がいました。鮮やかなピンク色の車いすに乗り、かつらをかぶっていたわたしは、「髪があるだけましょ」と思ったものです。ハイヒールで歩き回ったから足が痛いと漏らしている子たちもいました。わたしは心の中で、「歩けるだけましょ」と想うのでした。でも今は、前のようにささいなことを気にするより、もっと大切なものに心を向けるようにしています。

これまでの数年間で、白血病を患い、化学療法の副作用を経験するという祝福によって、ほかにもたくさんのことを学びました。わたしは天父に近づきました。証が強まりました。また、ほんとうに大切なことは何かを知りました。人がしてくれるささやかなことすべてに感謝するようになりました。今、病状は和らぎ、痛みも減り、少しづつ一部の関節を使えるようになってきました。癒され



## 人生の嵐の中を 導かれて

「時折主はわたしたちを実り豊かな僕とするとために、わたしたちが試練に遭うのをお許しになります。……すべてを御存じである主の目はわたしたちのうえにあり、永遠の天の親としてわたしたちを見守ってくださっています。試練は現世でわたしたち全員に確実に訪れます。それらが訪れたときには、自己憐憫の淵に沈むことなく、どなたがかじ舵を取っておられるか、主がそこにおられ、人生のあらゆる嵐の中でわたしたちを導いてくださることを思い起しましょう。」

大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長(1920-2007年)  
『恐れることはない』『リアホナ』2002年10月号、5。

続けていく中で、祝福や学ぶ機会が次々とやって来ます。

ですから、もう「なぜわたしが」とか、「なぜ今」とは考えなくなりました。試練の中で靈的に強くなったからです。主は逆境とそれに伴う祝福を経験させてくださるほどにわたしを愛してください、そのおかげでわたしは自分がほんとうは何者であるかを見いただすことができたのです。■

注——エリザベスは病状が改善し、化学療法をやめて満3年を迎えるました。関節は回復しつつあり、もう車いすには乗っていません。再発の危険性はまだありますが、エリザベスは気に留めていません。大学1年生になり、試験勉強をしたり、オーボエやイングリッシュホルンを練習したりすることに心を向けているのです。

# 「両親は教会員ではありません。 彼らの気分を害さず福音を伝えるには どうしたらよいでしょうか。」

「あなたの父と母を敬え」という戒めを思い起こしましょう(出エジプト20:12)。両親の望みを尊重しながら、家庭に福音を取り入れてみましょう。例えば、『成長するわたし』や『神への務め』を手伝ってくれるように頼んで、教会に良いプログラムがあることを知ってもらうことができます。教会の友達を家に招いて、福音について話すのも良いでしょう。これは両親があなたの信じていることについて尋ねるきっかけになるかもしれません。何より重要なのは、両親と福音にどれほど感謝しているかを伝えることです。

その時が来たと感じたら、祈りながら、あなたの気持ちを強く押し通すことはせずに、一緒に祈ろう、教会に行こう、あるいは家庭の夕べをしようと誘いましょう。もし断られても、両親の気持ちを尊重してください。今はまだ福音を受け入れる準備ができていなくても、いつか準備ができるかもしれません。その日が来るよう祈り、待ち望みましょう。

いつも両親の良いところを見ましょう。愛を示すことは、チャンスの扉を開く助けになります。できるかぎり福音に従って生活しましょう。あなたの良い模範や、福音がもたらす祝福を目にして、もっと興味を持ってくれるようになるかもしれません。

## 『リアホナ』のポスターを活用する



2006年にバプテスマを受けるまで、家族が属していた別の教会に出席していました。初めは反対されることが不安で、教会のことを話すのが怖かったです。でも、家の数箇所に『リアホナ』のポスターをはり始めたら、家族が「この写真は何、どういう意味」と尋ねてくるようになりました。質問されることで、教会が家族にどんな祝福をもたらしてくれるかを話しゃすくなりました。ポスターのおかげで、いちばん下の妹がバプテスマを受けました。今、わたしは伝道中ですが、父と母からの手紙には、教会に行くことが楽しくて仕方ないと書かれています。

**ブラジル・サンパウロ東伝道部、アルメイダ長老、20歳**

## 福音に添って生活する

生活を通して、教会があなたにとってどれほど大切か、どのようなすばらしい変化をもたらしてくれているかを伝えましょう。そのためには、福音に添った生活をすることも含めて、中央幹部の勧告に従うべきです。いつも祈り、聖文を研究し、教会に出席し、戒めを守り、『若人の強さのために』の標準に添って生活し、目標を達成するために努力し、聖靈に従いましょう。また、両親のために断食して祈り、御靈の導きを求めるることもできます。さらに、両親に愛を示すべきだと思います。

**アメリカ合衆国、ネバダ州、アンドリュー・B、14歳**

## 難しいけれど不可能ではない



わたしなら神に祈って、両親と話すときに彼らの感情を損なわないよう、正しいことを言えるように願い求めます。また、誠実さと愛が伝わるように御靈を求めます。モルモン書を裏づける聖句を聖書から紹介します。自分の経験や気持ちも話すでしょう。そして、福音と神の愛と祈りは、だれもが望む靈的な平安にわたしたちを近づけてくれると説明します。主の業は難しいですが、不可能ではありません。御靈を信頼しましょう。

メキシコ・ペラカルス、ホナサン・E、19歳

## 気持ちを伝える



福音を伝えるのが怖いなら、祈ったり聖文を読んだりするときに感じる気持ちを話すことから始めるよいと思います。自分に証があることを伝え、福音が好きな理由を説明してください。一度気持ちを正しく伝えられれば、両親は理解してくれ、気分を害することはないでしょう。

アメリカ合衆国、イリノイ州、マディソン・N、14歳

## 愛をもって語る

わたしの父は会員ではありません。そのために大変なときもありますが、学んだことが幾つかあります。まず、偉そうにではなく愛をもって話すと、父は拒みにくいようです。意見が一致しなくとも、その愛を感じてもらうことができます。第2に、福音は簡潔なものです。聞こえのよいものにしたり、変えたりしてはいけません。簡潔な真理を述べましょう。最後に、わたしたちはキリストの証人として召されていることを思い出しましょう。

アメリカ合衆国、ユタ州、ペイジ・I、19歳

## 心の変化

教会の標準を守り、すべての戒め、特に知恵の言葉を守り、行動で愛と従順を示すことによって、両親に対して良い模範となることができます。そうすることで両親はあなたの行いに注目するようになり、彼らが主の教会に入る助けとなるかもしれません。個人の祈りを通して、両親の心を変えてくださるよう天父に求めることもできると思います。

インド・カルナータカ、シャーミラ・S、18歳

## 模範となる



テモテへの第一の手紙 第4章12節の中でパウロはこのように教えてています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」良い模範を示すことは、両親が改宗するきっかけとなります。福音の証を述べるのに適した環境と機会を作ります。恐れることなく信仰を持ち、模範となることで、両親の考えが変わり、彼らとあなたの生活に祝福がもたらされるかもしれません。

フィリピン・カワヤン伝道部、トヌマイベア長老、20歳

## 質問

「聖典を読もうという意欲をなかなか持つことができません。どうすれば意欲を持つことができるでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2010年1月

15日必着で下記までお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 1/10

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メールアドレス——

[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために文  
章が編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入り  
の許可文を必ず明記／同封してください。

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

ワード(または支部) \_\_\_\_\_

ステーク(または地方部) \_\_\_\_\_

意見と写真の掲載を許可します。

署名 \_\_\_\_\_

親の署名(18歳未満の場合)

## 主の方法とタイミングで



「わたしたちの行動も主の導きを受けたものでなければなりません。この業は主の業であって、わたしたちの業ではありません。わたしたちはこの業を主の方法と主のタイミングで行うべきであって、自分たちの方法や都合で行うのではありません。この点を誤ると、わたしたちの努力は挫折や失敗に終わることでしょう。

福音を必要としているにもかかわらず心がそれに向かわないでいる人が家族や友達の中に必ずいます。わたしたちが効果的に働くためには、主の導きがどうしても必要です。彼らが最も受け入れやすい方法とタイミングで働きかけることができるようになります。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オーカス長老、「福音を分かち合う」「リアホナ」2002年1月号、8



こんにちは  
今日の雇用の荒波の上を  
独りで航海する必要はありません。  
地元の教会指導者に加えて、  
メキシコシティー職業支援センターに  
いるようなスペシャリストたちが、  
有益な指導をしてくれます。



# 労働の祝福

管理ビショップ

H・デビッド・バートンビショップ

**船**に乗ったり、海の近くで過ごしたりしたことのある人は、海はとても状態が変わりやすいことを知っているでしょう。波、潮、海流、風は絶えず変化し、互いに影響し合います。有能な船乗りや漁師は、自分が行かなければならぬ場所へ安全に進むために、波や潮の進み方や、風や海流を利用する方法を学びます。

世の中もまた移り変わりやすく、その変化の速度はますます増しているようです。変動する世の中で潮が大きく満ち引きする場所として、  
変遷する雇用市場があります。幸いなことに、船乗りが無事に航海するために技術や海図、その他の道具を用いるように、移り変わる雇用情勢の海においても、航行するうえで役立つ援助手段や、身に付けられる技術があります。働くことだけでなく、仕事を見つけることに長けている人々は、このような変化の時代をうまく乗り切れるでしょう。

## 戒めと祝福

今日、多くの人々が労働の価値を忘れていました。人生で最高の目標は仕事をしないで済む状態を獲得することだという誤った信念を持っている人々がいます。デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は、よく次のように語りました。「働く特権が賜物であること、働く力が祝福であること、そして働くことを愛することが成功であることを理解しましょう。」<sup>1</sup>

労働は単に経済的に必要というだけではありません。靈的に欠かせないものです。天の御父はわたしたちの救いと昇栄をもたらすために働いておられます(モーセ1:39参照)。そしてアダムの時代から、御父はわたしたちに働くよう命じておられます。エデンの園でも、アダムに指示を与えて「耕させ、これを守らせられ」ました(創世2:15)。墮落の後、アダムは次のように命じられました。「あなたは顔に汗してパンを食べ[る]。(創世3:19) ほかの戒めと同じように、労働には喜びがあります。正直かつ生産的に働くことは、充足感や自尊心をもたらします。自立し、自分や家族の必要を満たすために全力を尽くした人は、それでもなお不足しているものがあれば、自信をもって主に求めることができます。

## 賜物、才能、興味

天の御父は、わたしたちが自分自身や家族を養ううえで役立てられるように、すべての人に才能や賜物を与えてくださっています。自分の才能や賜物、興味を認識することは、職業に備えるための重要な第一歩です。大管長会の一顧問であるヘンリー・B・アイリング管長は、父親のヘンリー・アイリングから、自分の興味に合った職業を選ぶことを学びました。

科学を愛する気持ちから、ヘンリー・アイリング教授は息子たちに、科学の分野で働く備えとして物理学を専攻するよう勧めました。しかし、ユタ大学で物理学を学んでいたときに父親と交わした会話が、アイリング管長の進路を変えることになりました。難しい数学の問題を解



労働は単に  
経済的に必要というだけ  
ではありません。

靈的に  
欠かせないものです。  
経済的な嵐が吹き荒れる  
この時代にあって、  
わたしたちが  
働くという戒めを  
守れるように、  
主は道を  
備えてくださっているに  
違いありません。

くのを手伝ってほしいと父親に頼んだときのことです。アイリング管長はこのように回想しています。「父は地下室に置いてあった黒板の前にいました。すると、突然手を止めてこう言いました。『ハル、1週間前にも同じような問題を解いたじゃないか。あのときと比べてちっとも分かるようになっていないようだね。このことについて勉強しなかったのかい。』」

アイリング管長は少し悔しく思いながらも、勉強していないかったことを認めました。父親の返答について、アイリング管長はこのように述べています。「勉強していなかったと答えたとき、父は口をつぐみました。ほんとうに胸の痛む、つらい瞬間でした。父がわたしをとても愛していて、わたしに科学者になってほしいと望んでいるのを知っていたからです。その後、父はこう言いました。『ハル、物理学はやめた方がいい。ほかのことを考えなくてよいときにそのことばかり考えてしまうほど大好きなものを見つけなさい。』」<sup>2</sup>

## 訓練と教育

自分の興味や能力について熟考し、それから自分をよく知っていて愛してくれている人々から——特に主から——助言を受けた後、自分の選んだ職業の分野に関して教育と経験を得ようと努める必要があります。教育と訓練はすべての人にとって最も価値ある投資です。

学ぶことを好きになりました。預金口座にお金を入れ続けることが大切なのと同じように、選んだ専門や職業において学び続けることが大切です。そうすればその技能は市場で常に通用します。船乗りが天候の変化を見逃さないように水

平線を監視し続けるのと同じように、職業において絶えず最新の情報を入手していることは、その分野で起きている変化に気づき、必要な針路修正を行うのに役立ちます。

## 助けを与え、助けを受ける

わたしたちは大海を独りで漂っているわけではありません。とても大きな船隊の一員なのです。海軍の艦隊に多数の援助船がいるのと同じように、教会にはビショップや支部会長、扶助協会会长、定員会会长、雇用スペシャリスト、そのほかわたしたちの航行を助けようとそばで待機している人々がいます。そのような人々から、履歴書を書く、効果的に就職口を探す、直接で上手にアピールする方法を学ぶなど、具体的な状況に合った支援や訓練を紹介してもらうことができます。

ネットワーキングという言葉が使われるようになるはるか以前から、船乗りは危険な浅瀬や新しい航路、物資の供給源などの情報を交換してきました。未知の海に入る船乗りは、役立つ情報や経験を持っていそうなあらゆる人に相談しました。今日の雇用環境においても、役立つ情報や経験を持つ人と知り合い、連絡を取り続けることは同じくらい重要です。まずは地元のワード、支部の指導者や親戚の中から始めるとよいでしょう。

## 子供に労働を教える

両親が行う最も重要な責任の一つは、子供に働くことを教えることです。幼い子供でも、家事を手伝ったり、人に奉仕したりするときに、労働のすばらしさを経験することができます。賢明な両親は子供と一緒に働き、頻繁に褒め、過度に負担となるような仕事を割り当てるのないように配慮します。

トマス・S・モンソン大管長は若いころ、両親から模範によって労働の原則を学びました。印刷業者だった父親は、世を去るまで実質的に毎日長時間一生懸命に働きました。自宅にいるときも、当然体を休めてよいはずなのに、働くことをやめませんでした。家族や近所の人々に分け隔てなく奉仕することによって働き続けたのです。<sup>3</sup> 母親も家族や友人に必要な助けの手を差し伸べようと絶えず働いていました。両親はモンソン大管長にも、同行したり、代わりに奉仕したりするよう頼むことがよくあり、人に奉仕するために働くことを息子がじかに学べるようにしました。

モンソン大管長は父親から社会で働くことを教わり、14歳のときに父親が経営する印刷店で初めてアルバイトをしました。



**船** 乗りが  
天候の  
変化を  
見逃さないように  
水平線を  
監視し続けるのと  
同じように、  
職業において  
絶えず最新の情報を  
入手することは、  
その分野で起きている  
変化に気づき、  
必要な針路修正を  
行うのに役立ちます。



14歳のときから今まで、日曜日以外で働かなかった日はほとんどないと、モンソン大管長は言います。「若いうちに働くことを学ぶと、それがいつまでも習慣となるのです。」<sup>4</sup>

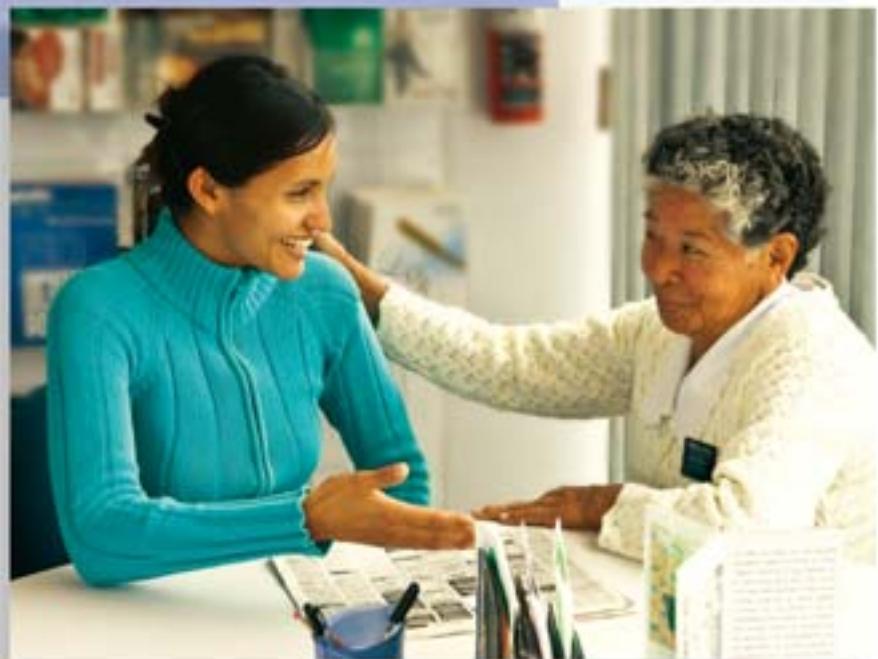
#### 忍耐強く働くことでもたらされる祝福

職業に関しては、人生で成し遂げなければならぬほかのほとんどのことと同じように、前進することが重要です。人や天に導きを求め、愛ある天の御父を信頼しながら最善を尽くすなら、御父は結果を祝福してくださいます。

大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長は若いころ、家計を助けるために洗濯物を配達するよりも、もっとほかの仕事をしたいと思っていました。荷車も重い自転車も、仕事そのものもあり好きになれませんでした。それでも、家族を支えるために一生懸命働きました。

そのような苦しい労働経験から受けた祝福について、ウークトドルフ管長はこのように語っています。

「時が流れ、徵兵年齢に近づいたわたしは、令状を待つよりも、空軍に志願してパイロットに



なることに決めました。飛行機が大好きだし、性に合うだろうと思ったのです。

入隊前に、数々の検査にパスする必要があります。入念な健康診断もありました。医師たちは、わたしの健康診断の結果に多少疑問を感じ、再検査を行いました。そしてこう言ったのです。『肺に傷跡があるね。10代前半に何か肺の病気をしたようだが、見たところ今は何

未知の海に入る  
船乗りと同じように、  
就職口を探す人々も  
その道を  
通ったことのある人々に  
相談するのが賢明です。

## 教会の職業支援

- ワードや支部の雇用スペシャリストに相談しましょう。雇用スペシャリストは求人情報を紹介したり、就職活動の技術を教えてたり、職業ガイダンスを行ったり、地域の情報窓口を推薦したりしてくれます。
- 教会は世界各地に**職業支援サービスセンター**を設けています。近くにあるかどうか知りたい場合は、神権指導者に相談するか、[www.providentliving.org](http://www.providentliving.org)で検索してください。
- [www.providentliving.org](http://www.providentliving.org)では、**求人を探すポイントや訓練**——面接、履歴書の作成、ネットワーキングなどの技能について解説しています(英語のみ)。

の問題もないよ。』医師たちは、どんな治療を受けて病気が治ったのか知りたがりました。わたしは、肺に病気があったことは、検査を受けるまで知りませんでした。そのとき突然思い当たったのです。病気が治ったのは、洗濯物の配達で、新鮮な空気を吸いながら常に体を動かしていたからだと。毎日毎日、重い荷車をつないだ自転車をこいで、坂を上ったり下ったりしていたからこそ、ジェット戦闘機のパイロットや、後にボーイング747旅客機の機長になることができたのです。  
.....

何年も後に分かったことを、あのとき知っていれば、——もし、初めから終わりを知ることができていたら、あの経験をもっと感謝できたでしょうし、仕事もずっと楽しかったことでしょう。」<sup>5</sup>

### 航海を始める

経済的に荒れているこの時代にあって、雇用の機会が引き潮のように減り、風や海流によって進路が阻まれているように思えるとき、ぜひ次のことを思い起しましょう。主が命じられることには、「それを成し遂げられるように主によって道が備えられて」いて、それでなくては、主は何の命令も人の子間に下されません(1ニーファイ3:7)。自分や家族を支えるために働くという戒めについても、わたしたちが守れるように主

が道を備えてくださっているに違いありません。

ある人にとって、このチャレンジは気が遠くなるようなものかもしれません。水平線の向こうに広がる大海を眺めたニーファイと同じです。砂漠に育った青年が、船を造り、船乗りになろうというのです。一つの転職と言えます。ニーファイは指示を仰ぎ、作業を始めました(1ニーファイ17:8-11参照)。今日においても、わたしたちが王国で犠牲を払って奉仕し、独りで航海するのではないことを知りながら信仰をもって船出するとき、主は祝福してくださいましょう。■

### 注

1. デビッド・O・マッケイ, *Pathways to Happiness* (1957年), 381
2. ジェラルド・N・ランド「ヘンリー・B・アイリング長老——決定的影響を受けながら歩んだ道」『聖徒の道』1996年4月号, 28参照
3. トマス・S・モンソン「幸福な家庭のしるし」『リアホナ』2001年10月号, 7参照
4. トマス・S・モンソン“Friend to Friend,” *Friend*, 1981年10月号, 7
5. ディーター・F・ウークトドルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号, 43参照

## いつ、あなたが病気をしているのを見て

**わ**たしは2003年から2005年まで、メキシコのベラクルスにあるグティエレス・サモラワードで若い女性の会長をしていました。毎年クリスマスが来ると、若い女性とその指導者は、お菓子を作って、ワードのお年寄りのところに届けるのが習慣になっていました。

2005年のクリスマスが近づいたころ、わたしたちは赤い帽子とスカーフを身に着けて、クリスマスキャロルの練習をしました。村は冬になると、霧雨が降り、冷たい北風が吹き続けます。しかし、そんなことなどものともせずに、多くの若い男性と若い女性がたくさんのパイナップルパイを抱えて出かけて行きました。

そして年配の兄弟や姉妹の家に着くと、喜びにあふれてクリスマスの歌を歌いました。それぞれの家を後にするとき、わたしたちの心は喜びでいっぱいでした。ほんのひとときではありましたがあが、歌とパイで幸せを届けることができたからです。

最後に訪れたファニータ姉妹は、長い間教会に来ていませんでした。青少年の中に彼女と面識のある人はいませんでしたが、わたしたち夫婦はずつ以前から彼女を知っていました。彼女は不治の病で寝たきりの、とても貧しい生活を送っていました。わたしたちが訪れる数日前には、長老定員会の兄弟たちが家に来て、数か所修理をしてくれたということでした。

家に着いて、彼女の名前を呼びましたが、返事はありません。何度も呼び続けると、「アラセリ姉妹、中にお入りください」というか細い声が聞こえてきました。中に入って彼女の置かれた状況を見たわたしたちは、悲しみを覚えずにいられませんでしたが、心から喜びの気持ちを込めて歌を歌いました。つい最近までファニータ姉妹は元気いっぱいでした。しかし起き上がった彼女を見て、青少年は涙を抑えることができませんでした。わたしたちの訪問を受け、クリスマスキャロルを聴

いたファニータ姉妹は、天の御父が自分を覚えていて、愛してくださっていることを感じることができ、深く感動して、わたしたちに感謝を述べてくれました。

彼女のましい住まいを後にした青少年は、彼女のために歌えたことを感謝しました。ぬれて寒い思いをしたことも気になりませんでした。自分たちの感じていた幸せを少しでも分かち合うことができた喜びで、心が満たされていたのです。そのときわたしは、次の聖句の意味をさらによく理解することができました。

「〔あなたがたは、わたしが〕……病気のときに見舞〔ってくれた。〕……」

『……いつ〔わたしたち

い最近まで  
ファニータ  
姉妹は  
元気いっぱいでした。  
しかし起き上がった  
彼女を見て、  
青少年は  
涙を抑えることが  
できませんでした。



は]あなたが病気をし[て]いるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』(マタイ25:36, 39-40)

それから数日後、ファニータ姉妹が亡くなったことを知り悲しくなりましたが、天の御父が御自身の子供たちを愛しておられることを、わたしは一点の疑いもなく知っています。また、御靈みたまの導きに従うならば、わたしたちは天の御父の手に使われる器となり、お互に祝福を分かち合うことができることも知っています。■

メキシコ、ペラカルス、  
アラセリ・ロベス・レセンディス

## 愛を身にまとって

それは12月のことでした。人々が、イエス・キリストの誕誕と、主が無限の贍あがないを通してわたしたちのためにしてくださったことを思い起こして、心優しくなる季節の出来事です。

わたしが仕事先から帰宅すると、3人の子供とわたしの美しい妻が、クリスマスにかかわることで一つの決心をしたと話してくれました。「今年はわたしたちに何もプレゼントを買わなくていい」と言うのです。

驚いたわたしは、「どうしてそうすることにしたの」と尋ねました。それでは、子供たちが長い間ずっと楽しみにしていたものをあきらめることになるでは

ありませんか。

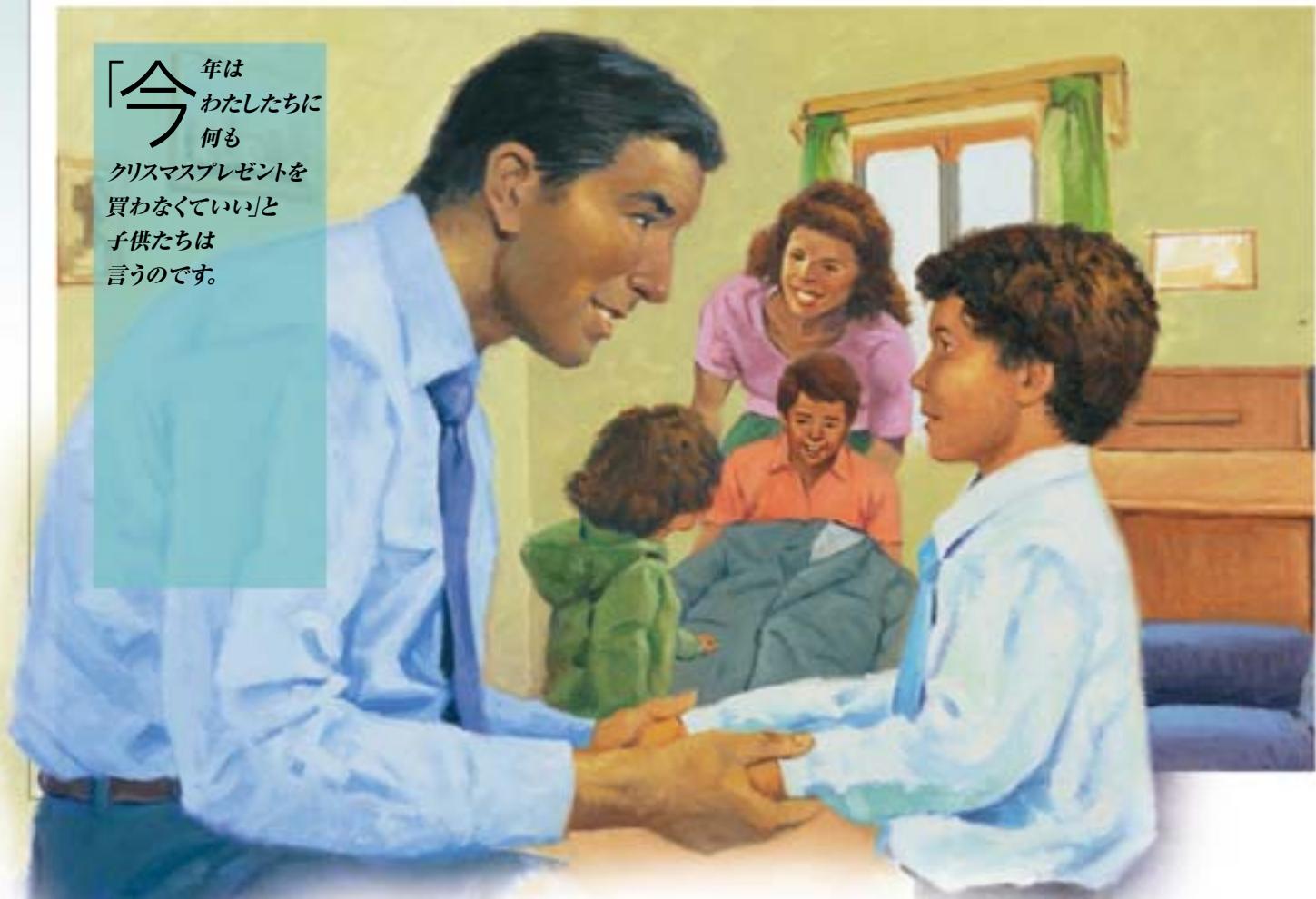
子供たちはすぐに席を立ち、擦り切れてよれよれになったわたしの2着の背広を持ってきました。そしてこう言ったのです。「お父さん、クリスマスプレゼントを買うお金で、お父さんに新しい背広を買ってほしいの。新しい服を着て仕事に行くお父さんを見たいから。」

これがクリスマスのほんとうの精神だと思いました。だれかのために何かを犠牲にするととき、わたしたちは、イエス・キリストの贍罪しょくざいの意味を理解することができるのです。

後日、クリスマスにもらった背広に身を包んだわたしは、愛を身にまとっているのを感じました。■

コロンビア、ボゴタ、  
ヴァルテル・シロ・カルデロン・R

「今 年は  
わたしたちに  
何も  
クリスマスプレゼントを  
買わなくていい」と  
子供たちは  
言うのです。



## 先生に教える

# 今

からだいぶ前の秋、わたし  
がニューヨーク市にあるコ  
ロンビア大学の大学院に通  
い始めたばかりのことです。広  
い教室いっぱいの学生を前に、古文書  
に見せかけて近年作られた偽造文書  
について教授が講義をしていました。  
教授が引用した偽造文書のリストの中  
にモルモン書が含まれているのを耳に  
して、わたしはびっくりてしまいました。

何もしないで教室を出るわけにはい  
かない、わたしは即座にそう思いました。  
すべてを犠牲にしてもモルモン書に対  
する証を守り通そうとした先祖を失望  
させることはできないと思ったのです。

講義の後、わたしは教授のところに  
行きました。彼はコロンビア大学で  
チャールズ・アンソン講座を担当してい  
ました。100年以上も前に、マーティン・ハリスはコロンビア大学のアンソン  
教授を訪れました。そのときマーティンは、モルモン書が翻訳された金版に  
刻まれていた文字を書き写した紙を  
持って来ました。

わたしは、父がわたしに、マーティン・ハリスについてつづった祖父の手  
紙を見てくれたときのことを思い出  
しました。祖父は、亡くなる直前の  
マーティン・ハリス兄弟に会いました。  
祖父が、モルモン書について尋ねると、  
ハリス兄弟はベッドから起き上がり、  
力強く証をしたそうです。彼はその目  
で天使を見、その耳で天使の声を聞き、  
確かに金版を見たのです。

「わたしはダイアナと申します。末日  
聖徒イエス・キリスト教会の会員です。」  
わたしは震えながら教授にそう言いました。  
「わたしにとってモルモン書は聖典  
です。それを偽造文書だとおっしゃる理  
由を聞かせていただけませんか。」



キャンパスを歩きなが  
ら、すでにモルモン書を  
読んだというその教授は、  
モルモン書の信憑性に疑問  
を投げかける幾つかの問題  
点を指摘しました。わたし  
は急いでそれを書き留め、  
教授の話が終わったときに  
こう尋ねました。「教授が挙げ

た問題点にお答えするために、該当す  
る資料を調べてレポートを書いてもよ  
ろしいですか。」教授はわたしのこの  
申し出を受け入れてくれました。

寮に戻ったわたしは、部屋のドアを閉  
め、ひざまずいて祈りました。すると、涙  
があふれてきました。自分の弱さと無力  
さを感じたのです。幸いその夜、教会  
で集まりがありました。話し合いに参加  
して靈が鼓舞されたわたしは、その場  
にいた宣教師に助けを求めました。彼  
らは、教授が指摘したほとんどの問題  
点に答える情報源を教えてくれました。  
それからわたしは、膨大な資料を收め  
ている大学の図書館に行って、資料を  
探しました。レポートの中でわたしは、  
教授が指摘した問題点について論じ、  
モルモン書が真実であるという自分自身  
の証を書き添えました。そしてそのレ  
ポートを教授に渡しました。

数週間、教授の返答を待った末に、  
目を通してくかどうか思い切って  
尋ねました。

「ああ、読んだよ。妻に見せたら、『何  
はともあれ、その学生が信じていること

「わ たしに  
とって  
モルモン書は  
聖典です。  
それを  
偽造文書だと  
おっしゃる理由を  
聞かせて  
いただけ  
ませんか。」  
わたしは  
教授に  
そう言いました。

を打ち碎いてはいけ  
ない』って言われた  
よ」と言うと、教授は  
くるりと背を向けて、  
去って行きました。

クリスマスが近づき、わたしは教授  
にモルモン書をプレゼントしたいと強  
く思いました。そこでモルモン書を手  
に入れ、自分の証と、レポートを読んで  
くれたことへの感謝の言葉を書き添  
え、クリスマス用の包装紙に包み、教  
授に渡しました。程なくして教授から  
手書きのメモを受け取りました。そこ  
には、「この驚くべき書物」を贈っても  
らったことへの感謝の気持ちがつづら  
れていました。

教授の言葉を読んだとき、わたしの  
目に涙があふれました。教授は二度  
とモルモン書を嘲笑の的に行なうことは  
ないと、御靈ちようしょうがわたしにささやいたの  
です。わたしは、心を和らげ、先生にど  
う教えればよいか分かるように助けて  
くれた御靈に心から感謝しました。■

アメリカ合衆国ユタ州、  
ダイアナ・サマー・ヘイズ・グレアム

# さらにすばらしい贈り物

ある朝、モルモン書を読み終えてあれこれ思いを巡らしていたわたしは、再び年末までにモルモン書を読み終えることができることに気づきました。すると、兄のことを思い出しました。2005年、末期の癌に冒されていた兄を自宅に引き取って、最後の数か月面倒を見たときのことです。

兄のオリバーは、ゴードン・B・ヒンクリー大管長（1910－2008年）の勧告に従い、年末までにモルモン書を読み終えると自分自身に課した約束を果たそうと決心していました。<sup>1</sup>しかし秋になんでもまだたくさんの読み残しがありました、体がひどく弱って、自力で読むことができなくなっていたのです。

決心したことをどうしてもやり遂げたかったオリバーは、モルモン書を読み

聞かせてくれないかとわたしに頼みました。わたし自身はかなり先まで

決  
心したことを  
どうしても  
やり遂げ  
たかったオリバーは、  
モルモン書を  
自分に  
読み聞かせて  
くれないかと  
わたしに  
頼みました。

読み進んでいましたが、兄が読んだところまで戻って読むことを快く引き受けました。

毎日オリバーに読んであげることによって、年末までにモルモン書を読み終えるという兄の目標を達成する手伝いができました。読み終えてから数日後、兄は息を引き取りました。兄の声は聞き取れないほど弱っていましたが、心は澄み切っていて、しっかりとしていました。兄は「おかげで目標を達成することができ、これで安らかに死ねる」と言い、渾身の力を込めて、わたしからの贈り物に対する感謝の気持ちを度々伝えてくれました。

わたしはそれまでに何度もモルモン書を読んでいましたが、兄が人生を閉じようとしていたあの数か月間ほど、モルモン書に込められた御靈を強く感じ、その教えをはっきりと理解したことはありませんでした。まさしくオリバーの方こそ、さらにすばらしい贈り物をわたしにくれたのです。■

アメリカ合衆国ユタ州、ロイス・N・ポープ

## 注

1. ゴードン・B・ヒンクリー「力強い、眞実の証」  
『リアホナ』2005年8月号、6参照。

# なぜわたしはこの世にいる必要があるのか



リスマスを1週間後に控えた2007年のある日のことでした。二人の子供が、診察の結果、連鎖状球菌による喉と耳の炎症を起こしていることが分かりました。薬局に行く道すがら、5歳のジェコブはずっとすり泣き、1歳7ヶ月になるベスはいつになくわたしにまとわりついてきました。

薬局に着くと、順番を待つ長蛇の列ができていました。ジェコブはわたしの足を引っ張って耳が痛いとぐずり、ベスは抱っこされているのをいやがり、降りてしまいました。わたしはベスが自分のそばを離れないだろうと思っていましたが、手を離すやいなや、列の近くのベンチに座っていた老人のところに一目散に走って行ってしまいました。

その老人は、顔を両手の中にうずめて、じっと床を見詰めしていました。わたしは列を離れくなかったので、ベスを呼び止ましたが、娘はその人のところに近寄って腰をかがめ、彼の顔を見上げると、にっこりほほえみ、それから笑い声を上げました。

わたしはジェコブにベスを連れ戻させようとしました。ジェコブは、ベスの手をつかんで老人から引き離そうとしましたが、ベスは頑として動こうとしません。それどころかその人の額を押して、頭を上げさせようとしたのです。わたしはだんだんはらはらしてきました。



次にバスは、ひものほどけた自分の靴を脱ぎ、その人のひざの上に載せました。すると、その老人は体を起こして、にっこり笑つたのです。

「バス！」わたしは娘を呼びました。

「いいですよ。靴ひもを結んであげましょう。」その人は疲れた声で言いました。

老人がバスに靴を履かせ始めたのを見て、わたしは少し不安になってきました。彼は終えると、両腕で娘を抱き締め、頭にキスをしました。彼がゆっくりと娘を手放したのを見て、わたしは急いで列を離れ、この見知らぬ老人から娘を救い出そうとしました。

ところが、その人に近づくと、その目に涙があふれていることに気づきました。気になったわたしは、隣に腰をかけました。

「実は」彼は前をじっと見詰めながら、言いました。「妻を亡くしてからまだ1か月もたっていないというのに、1時間ほど前に、自分が末期の癌であることを知らされたのです。ここに薬を買いに来たのですが、自分の人生に思いを巡らしているうちに、自ら命を絶つことになるのではないかと考えていたんです。愛する妻がいなくなったら今、クリスマスを過ごすことも癌の痛みに耐えることもできないだろうと思って。」

彼は、神に祈ってこう尋ねていたそうです。「わたしが何らかの理由でまだこの世にいる必要があるのでしたら、今、声をかけてください。さもなければ、わたしは家に帰ってすべてを終わりにします。」すると、「アーメン」と言う前に、バスが彼にまとわりつき出して、「おじいちゃん」と呼んだのです。

「自分がなぜもう少しこの世にいる必要があるのか、今、分かりました。孫たちのそばにいてやらなければい

わ たしはバスを  
呼び止め  
ましたが、  
娘はその人のところに  
近寄って、腰をかがめ、  
彼の顔を見上げると、  
にっこりほほえみ、  
それから笑い声を  
上げました。



けないんです。孫たちにはわたしが必要なんですよ」と老人は言いました。

わたしは思わず彼を抱き締め、涙を流さずにはいられませんでした。やがて順番が来て薬を買うことができました。ほんの少し前までひどく具合が悪そうにしていたバスは、老人の頬にキスを

すると、「バイバイ、おじいちゃん」と言って、手を振り、ジェコブと一緒に、飛び跳ねるようにしてその場を後にしました。

わたしはその人の名前を聞きませんでした。しかし、老人にまとわりつく幼い子供でさえ祈りの答えになれる 것을, 決して忘れる事はないでしょう。■

アメリカ合衆国ユタ州、メガン・ロビンソン

# 秘密を公開します

## 成人向け

- 福音に関するテーマを深く掘り下げる記事
- 教会指導者からのメッセージ
- 地元の教会員に関するニュース
- 結婚に関する勧告

## ヤングアダルト向け

- 福音を生活に応用する方法
- 教会指導者が皆さんに知ってほしいと思うこと

## 青少年向け

- 証を得、強めるための方法
- 福音に関する質問への答え
- 青少年の経験談

新しくなった  
『リアホナ』は、  
すべての人々に  
役立ちます。

皆さん  
が  
それぞれの人生  
でどのような状況に置かれているかにか  
かわらず、わたしたちは皆さんの必要に  
きめ細かく対応したいと思っています。  
それぞ異なる状況にいる教会員に役  
立つ資料を提供することによって、各自

が現実の生活で直面する問題を解決  
するために応用できる福音の原則を見  
いだす助けになりたいと望んでいます。  
新しい『リアホナ』には、皆さんと周  
りの人々に役立つ記事が満載されてい  
ます。どうぞお見逃しなく。リアホナの  
購読申し込みの更新を忘れないでくだ



### 指導者と教師向け

- 召しをより効果的に果たし、教え方を向上させ、会員に適切な助言を与えるための助け



### 新会員向け

- 末日聖徒の信条に関する簡潔な説明
- ほかの新会員の改宗談

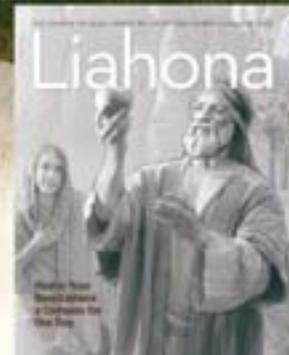
### 子供向け

- 世界中の子供たちの絵やお話
- 福音を教えるのに役立つ楽しい活動

### 家族向け

- 子供たちに教える際に『リアホナ』の記事を活用するためのアイデア
- 家庭の夕べを行うためのアイデア
- 家庭で福音を応用した家族の体験談
- 親としての在り方に関する助言

さい。また大切な人にプレゼントしてはいかがでしょう。これを自分たちだけの秘密にしておくのはもったいないと思いませんか。



2010年1月号から

## 家庭の夕べのためのアイデア

以下は教え方の提案です。皆さんの家族に合わせて変更を加えてよいでしょう。

**「われら、3人の王」** 12ページ——「ほとんどの人々は、教師が単に話すだけでなく、絵や地図、言葉のグループ分けや、その他の視覚資料を使用した場合に、より多く学び、学習したことをより長く記憶にとどめることができる。」<sup>1</sup> この記事を使って教える際に、この記事またはその他の教材に掲載されている絵を見せるといでしよう。ロールプレーは、人を視覚教材として活用する方法です。<sup>2</sup> 家族と学ぶときに、幼子イエスを訪れた博士たちの話をロールプレーにしてもよいでしょう。

**「敬虔さを通して礼拝する」** 26ページ——家族は、教義を教える機会を与えると、その教義をよりよく理解し、応用できるようになります。<sup>3</sup> この記事に採り上げられている原則を家族同士で教え合うようにしてもよいでしょう。



家庭の夕べを開く数日前に、この記事を3つに分け、それぞれを家族の中の3人に割り当てて、各自が学んだことを家庭の夕べで発表してもらいましょう。

### 「労働の祝福」

36ページ——物語は、聞く人の興味を呼び起こし、効果

的な教授法になることが多いものです。<sup>4</sup> H・デビッド・バートンビショップが説いている労働に関する教義を分かりやすく教えるために、トーマス・S・モンソン大管長やヘンリー・B・アイリング管長、ディーター・F・ウークトドルフ管長の経験談を記事の中から引用するのもよいでしょう。働くことによって得た祝福について、家族に体験を話してもらってレッスンを締めくくります。

### 注

- 『教師、その大いなる召し』181
- 『教師、その大いなる召し』177参照
- 『教師、その大いなる召し』161参照
- 『教師、その大いなる召し』92, 179 – 181参照

### 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	雇用, 36
愛, 2, 10, 16, 34, 41,	慈愛, 25
42, F14	初等協会, F4
あがな 頽い, 2, 24	かぎ 神権の鍵, 18
イエス・キリスト, 2, 8, 24,	信仰, 12, 26, 30, F2,
F2, F12	F10, F12
祈り, 30, 45	ステーキ会長, 18
歌うこと, 10	スマス, ジョセフ, F14
家族, 2, 34, F7	聖餐, F12
活発化, 18	伝道活動, 34, 36
家庭訪問, 16, 25	奉仕, 2, 10, 16, 25, 41,
犠牲, 42	44
逆境, 30	モルモン書, 43, 44
教育, 36	礼拝, 26
クリスマス, 2, 8, 10, 12,	労働, 36
16, 24, 41, 42, F2,	
F8, F10	
けいけん 敬虔, 26, F4	
啓示, 18	

### 父親の責任



「定期的な家庭の夕べ、家族の祈り、福音の学習、聖文を読む時間、そのほかの教える機会を通じて家族に福音を教える責任と真剣に取り組んでください。伝道と神殿結婚のための準備については、特に強調してください。……兄弟の皆さん、自らの救いを別にすれば、妻と子供たちの救いよりも大切なものはほかにありません。」

ハワード・W・ハンター大管長(1907–1995年)  
「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号、59参照





「マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた」ロニ・クラーク画

「すると御使みつかいが言った、『恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。』」(ルカ1:30-32)



「クリスマスの季節だけなくいつでも、だれもが心の中で切望するのは、  
自分たちが愛で固く結ばれていて、それが永遠に続くと確信できることです。」  
ヘンリー・B・アイリング管長はそう書いている。

「これが永遠の命の約束です。永遠の命こそ、神が御自身の子供たちへの  
最も大いなる賜物と呼んでおられるものです(教義と聖約14:7参照)。  
この約束を可能にしているのが、御父がわたしたちに賜わった愛子という贈り物、  
すなわち、救い主の誕生、贖い、復活なのです。」

「クリスマスには帰る」2ページ参照

